捃拾帖

明治二十年

廿六

A 00
6010

A00-6010

東京國立博物館圖書之印

B 61009

男爵田中美津男氏寄贈
先代田中芳男男爵旧藏書
昭和七年

稟告

西洋ニテ滋養第一ト稱スル「ビスケット」ハ其味[illegible]
爽淡泊ノ雅品ニシテ花晨月夕飯後茶前特ニ珈琲[illegible]
シアトナドハ必ラズ欠ク可カラザル良菓ナリ加之[illegible]
脾ヲ調シ胃ヲ補ヒ愛子愛孫ノ食用ニハ他ノ食物ヲ[illegible]
スルノ功アリ隨テ過食モ害ナク實ニ洋人常食ノ[illegible]
スユヱンナリ

「カステーラ」ハ往時蘭人ノ遺法ニ始マリテ本舗ノ經[illegible]
ニ成リ其味甘キニ泥マズ淡キニ失セズ洒々落々澹泊ナ
ルノ雅趣ハ彼ノ陶家黄金ノ花色ニ似タルハ菓中ノ隱君
子トモ謂ハンカ茗讌ニ興味ヲ賛ケ酒後ニ餘韵ヲ傳フ實
ニ江湖ノ鍾愛一日モ怠タラザルユヱンナリ

「ボン〳〵」ハ西洋菓品製造中ノ最モ難シトスル處ナリ
何トナレバ糖房凝固ノ中ニ流動質ノ飲物ヲ含藏セシム
ルモノニシテ殆ント天造モ及バザル作用ヲ人造ニテ製
出スレバナリ而シテ本舗辛苦良製ノ結果ヲ得タルハ夙
ニ江湖ノ喝采ヲ博シタリ高會談筵ムノ時讀書氣倦ムノ
後一喫能ク心目ヲシテ豁如タラシメ又妙ニ酒渇ヲ療ス
ルノ快アリテ實ニ珍菓中ノ精品ト謂フ可シ

一 滋養菓子 乾蒸餅 洋名 ビスケット

一 最上 カステイラ

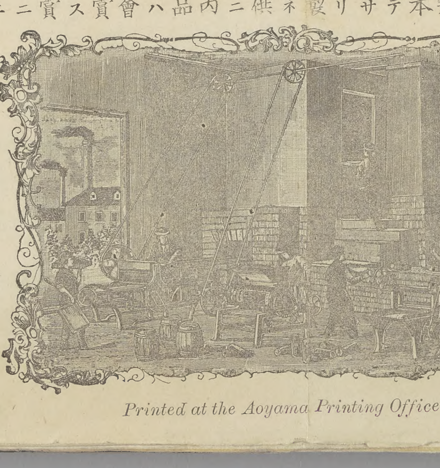
一 新製各酒入 ボン〳〵

一 ケンデイ

一 祝日用御飾菓子 プロンケイク

一 メンチパイ 其他御好ニ應シ調製仕候

抑モ西洋菓子ヲ本邦ニ於テ創製セシハ本舗コレガ鼻祖ニシテ廠ノ初メ洋食ノ方サニ世ニ行ハルヽヨリ茲ニ感アリテ該精製ノ工夫ヲ發企シ洽ネク內外人ノ需用ニ供セシヨリ大ニ時好ニ適シ遂ニ明治十年內國勸業博覽會ニ出品シテ鳳紋賞牌ヲ賜ハリ同ク十四年博覽會ニ於テハ有功一等賞牌ヲ賜ハリ特ニビスケットハ進歩二等賞牌ヲ賜ハリタリ實ニ本支舗ノ榮耀之レニ過ギス就中ボン〳〵ハ最モ本舗ノ焦思苦慮シテ効ヲ奏セシモノナリ此ク再度ノ賞牌ヲ賜ハルノミナラス既ニ支舗ヲ數所ニ開クニ至リシハ全ク江湖諸君ノ奬勵愛顧ニヨリ開進ノ結果ヲ得シモノナレハ茲ニ鳴謝ノ意ヲ表センカ爲メ一層廉價ニ販賣シ廣ク御好ニ應ジ調進セント欲ス尚クハ舊ニ倍シ愛顧ノ益ス深カランヿヲ


Printed at the Aoyama Printing Office.

歐州風菓子乾蒸餅製造所 本舗 東京府下日本橋區両國若松町 風月堂 米津松造

同 分舗 同 京橋區南鍋町 風月堂 米津恒次郎

同 支舗 同 神田區淡路町 風月堂 穗積峯三郎

同 支舗 同 麻布區飯倉町四丁目 風月堂 宍倉傳吉

讃岐名産
八景砂糖 廣告

白鳥。五劔山。玉藻城。飯の山。
津田松原。屋島。白峯。象頭山。

右も今般弊舗の新發明にして諸君乃夙よ知らるゝ吾國物産の第一等なる三盆砂糖を以て當讃地乃名所古跡の八景を模し他店未た曾て見ざる乃良製にして獨り弊舗新奇の佳品たる自ら誇る處なり殊に梅雨炎天の候と雖とも其形様を崩され好味を損せざ遠國行旅等には尤も適するの好土産なして一は以て讃地製糖純味乃美を賞せしめ一は以て勝地絶景の觀或評せしむるに足るべし願くは愛顧の諸君嘗味乃上余が陳る處の誣言ま非ざるを信し陸續來ゝ購求あらんことを

讃岐國高松西新通町
六拾貳番地
明治十九年三月　千壽堂　松岡友七

附白
數年來弊舗の頗る善良を盡し鹽製を以て四方の高評を博せし干菓子蒸菓子其他各種茶用の菓子類共一層勉勵風流精美を加へ廉値を以て益販路を擴めんど欲す猶倍舊江湖諸賢の愛顧を仰く

抑此袋烏賊義ハ丹後國天橋名産にて與謝の浦天橋海に生し候一種の産にして余國に生し不申無類の品丼甘味余品譬るに物なし尤十月中頃より取れ始メ十一月末を限りとしわずか五十日間を漁し余月にハ一切上り不申品也製の義ハ海底より引上ヶ生の儘卸座に製し夫より數日寒風ニテさらし製し上ヶ候品故いつ迄御貯置に相成候とも美味替る事なし御用様ハうら表より少シ御火取なされ極細く松葉の様に御切に相成御酒肴の盛り合せ茶會御八寸の御取合によろしく又女孤男孤になされ候にハ右うら表より火取なされカンナにてけずり其儘御茶請にも相成又卸府御吸物にハ右品すこし汁り吸物椀に入れ梅干を半分わしらい焼鹽を少シ入て上ョり沸湯をかけ候へば卸座の吸物に妙也御旅中御携並に御進物等に至極の妙品四方の君子御求を願ふものハ

天橋堂の主

御行　大坂堂島　杉崎

和歌山縣名産
湯淺
大坂屋三右衛門製
玉井味噌
本町三丁目定宿
賣弘所　藤屋　正木

讃岐名産
八景砂糖

生干御菓子司
讃岐高松西新通町
松岡友七事
千壽堂精製

珊瑚珠玉幷ニ枝類
鰻節鰹節酒盗
鯨るい賣捌所
高知縣土佐郡農人町三十六番地
㊝宮尾久右衛門

祇園新地
京地手函
亀佐
大和橋南入

鰹酒盗詰
別製

宮城縣本吉郡
階上村菊田友之助

黒龍
萌頭

御覧

入句御覧堀切菖蒲 / 鷺花六月下 / 菖蒲邸中葛飾郡 / 南當五月 / 候

西

大関	関脇	小結	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭

直酒婆大危鶴鶴鶯猫白紅鶴歸
十中瀬鳥ケノ籠ノ子鶴華鵲雁
毛鷹
鶴花川毛島衣浪浪迅瀧瀧瀧樓桜

東

大関	関脇	小結	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭

佐伊洞雲王昇五雲七立座大笑
の達入亥照　月ノ　田門　布
渡り貝子賓君龍雨上賞川林淀袋

司　行
白　稲　年
妝　妻　獅子
丹　寶　四天
宕　鷺

浅和朝万後蝦蝦利楽達朝如古熊五
妻ノ壹蘭東勝ノ菜日茂稀為奪舞
ノ　烟
舟より浪傘銀錦玉上宮鑑川邑祀舞

鶏和万入想鈫扶御万五㞢華楽御
哥里日夫ノ　子里輌ノ　辛
鳳浦布帰雛戀雛舞楽柔恐響遊色火形傘

沖瀾浪松楽河千刈三初富登樓江鶴四大
ノ運楽ヶ　羽　堂ろ土拝麟戸ノ　涵鑑
白　　　　　　　　　　自
帆鏡舟枝車　鶴鴨山爪雪江角慢春浪石

寺　年
月　奥
下　津　岸
浪　白　濱
宗　動　差　藤
宇　鳳
宙　風　秋

玉舞龍銀蓮桥
宝鶴爪玉香鶴七大
岸龍都二十平福
久八
称王鳥重楽神

子仙振花蜀黒泉大星除葵神紅朝六白青
第女り　紅　鳴月潮　代　日五香
車胴鼓葵錦雲川海夜遊参音鼓葵川瀧浪

鶏神玄花鶴長青甲田後玉隔吉青花峯鳴虎宇
ノのリ　生籠毎田　田ノ　漁　治ノ
見
鶯浪先鳥合殿刀月彦花川恵田錦雪浮踊里

山　寒　外　芍　薬　四
清　草　花　種　類

五三宇養岩猿入不桐松源友宝龍明霜初十
月節ノ治戸　日老葉白　陵代
雲衣發老光踊雲門壺車田髪舟沢乃月言鶴

元祖　堀切
伊右衛門　小高園

土三月　壱番
老ト　らい

明治十三年
十九年十二月十八日届
同年今月出版

大日本帝國

官許

陸軍軍醫總監正五位勲三等松本順先生御傳

滋養補益 傑列乙酒

該酒ハ滋養ノ功アルケレータヲ以テ調和スル故ニ胃ニ入テ消化早ク氣血ノ循環ヲ促ス了神速ナリ老人小児小便近キモノ毎夜一猪口ツヽ服用スレハ身体温補ニシテ其夜ニ験アリ是則腸胃ヲ健ニシ精神ヲ振起スルノ功験ナリ疾後疲労産前後等總テ血ノ不足スルニ必ス可用風味芳烈ニ甘美ニテ殊ニ一切ノ飲料也

東京通新石町
調製元鋪 鶴岡市太郎

名物 小田原十字町
紫蘇巻梅
外屋弥兵濤

大日本

商標
TRADE MARK

三重縣製茶會社再製
四日市賛業組販賣
原製人駒田作五郎

GENUINE
JAPAN BLACK TEA
PACKED BY
THE MIYEKEN TEA Co.
SOLED BY
SANGIO Co.
YOKKAICHI, MIYEKEN.

SEUL DEPOSITAIRE
VIN ROUGE AU QUINQUINA
ISE YA CHOJIRO

蝦子入
薑筍

青蜾

扁蜾

魚翅

肉絲入
金針菜

玄魚捲
此錦ハ少シカリ〳〵

魚肚

天鮑

一本撰長干瓢

まつぽん
湯島切通
御蒲焼
美連江屋

[redacted]覧会場
賣品之證

春蒔は三月下旬より床蒔し苗を別の床に移し後畑に植出し七月中旬より八月中旬迄に採り秋蒔八月中旬より九月上旬に蒔十二月中旬より翌年の三四月までに採る堆糞を原肥とし三四度人糞を施すべし

米國種
甘藍 七号
鉢名 ラージレート、ドラムヘッド、キャツベージ

Cabbage,
Large Late Drumhead.

金三錢

東京三田育種場

越の梅
南越佳品
梅浦海産

越前國丹生郡梅浦
厚生社

帯霜菓顆
佳味鮮新
異域名産
僊家奇珍
芝口二丁目
蟹屋製

蝦子入
蘆筍

青螺

扁螺

魚翅

肉絲入
金針菜

湯島切通
まつぽん
御蒲焼
美遊江屋

博覧会場
賣品之證

一本撰長干瓢

天鮑

魚肚

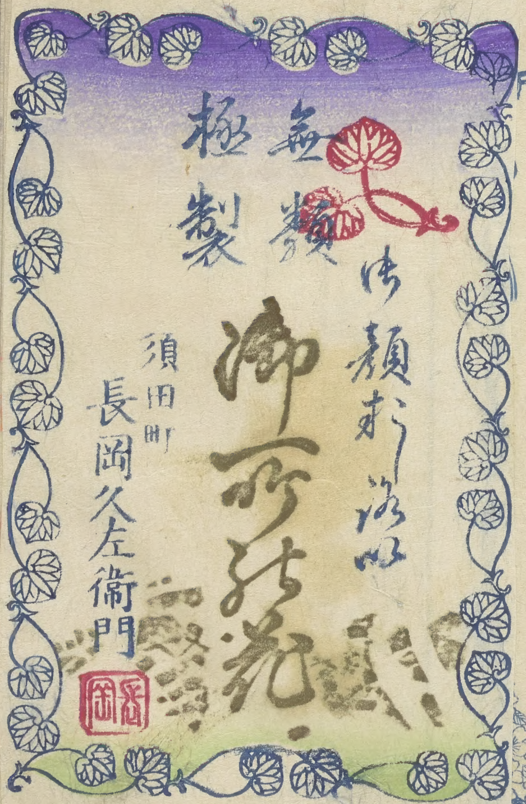
玄魚捲
此線ハ切リ

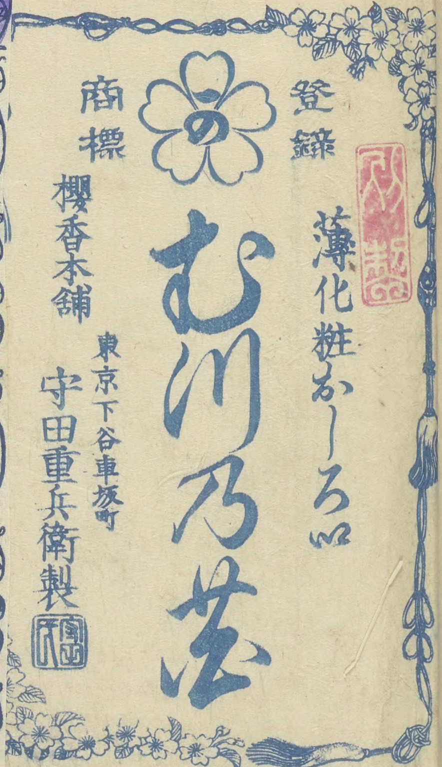
帯霜菓類
佳味鮮新
異域名産
僊家奇珍
芝口二丁目
蟹屋製

菜單

一 蜜明骨
一 蟹粉魚翅
一 清湯全鴨
一 東坡肉
一 炒蝦球
一 炒鶏片
一 白汁海参
一 鯨筋湯
一 鮑魚片
一 尤魚捲
點心
小菜八様

[illegible]





[illegible]

廣告

拜啓　春來氣候不順ニシテ農産物ノ損傷實ニ尠シトセス今ヤ其欠ヲ補フハ水産物ヲ以テスルニ若クハナシ昔日凶荒ノ時ニ於テ各地人民ノ往々水産物ニ依テ饑餓ヲ免カレシハ其例ニ乏シカラス故ニ此際本會ニ於テ廣ク會員諸君ニ問ヒ聊カ濟急ノ方法ニ就テ講究スル所アラントス依テ左ノ條項ニ對シ幸ニ高説ヲ投寄セラレンヿヲ望ム

第一　從來放棄シテ顧ミサル水産物(假令ハ「テンツ」、「モ」「水龜昆布屑等ノ類ヲ云フ)ヲ以テ食用ニ供スル事

第二　從來食料ニ供セシ水産物(假令ハ「アラメ」等ノ類ヲ云フ)ノ利用ヲ廣ムル事

但右二項ハ其製造貯蓄調理等ノ方法ヲ詳記アリタシ

第三　米穀ノ實ラサル水田ニ魚介(假令ハ鯉、鮒、田螺、蜯等ノ類ヲ云フ)ヲ養成スル事

但養成ノ方法等ヲ詳記アリタシ

第四　製造品ヲ改良シテ輸出ヲ增加シ以テ豫メ凶歉ニ備フル事

以上ハ唯其一二ノ例ヲ擧クルモノナリ尚ホ此外救荒上有要ノ事件ハ詳細報道アランヿヲ乞フ

明治十八年六月

各地會員諸君　御中

大日本水産會

持主　關澤明淸　編輯人　松原新之助　印刷人　眞崎健　印刷所　有隣堂第二活版所

賞狀寫

三重縣紀伊國北牟婁郡
尾鷲南浦
通常會員
土井幹夫

二等賞　大平蜜柑
三等賞　溫州蜜柑

右者第六回第拾回農産品評會出品優等ニ因リ之ヲ贈與ス

明治十八年二月二十七日

大日本農會頭二品勳一等能久親王　印

鯀爾雅

[illegible]私店儀追々得意様之
御愛顧を以日増繁栄仕難有奉存候今般新製[illegible]
入御覧に奉存候品物吟味仕精々大勉強致し[illegible]
諸君の御注文待奉り候也

煙草小賣所

烟艸仲買所

煙草製造所

やなぬき　あらぎ里　國分煙草類

これ人も敷出産ゆ　買ふ初菊ハ薫りよ　高木堂の賣物

名葉御好次第

煙艸表

一　熊本製　品々
一　水戸製　品々
一　相州製　品々
一　雲井巻莨　品々

就中雲井巻莨の儀ハ其類なきを以て今般弊店に於て精々良品を撰ひ製造し博覧會に出品せし処幸に賞牌を賜ハり依て従今尚ほ一層良品を撰ひ製造し以て廉價に販賣せり乞ふ四方の諸君益々御購求あらん事を

諸縣煙草大販賣所
東京本郷區春木町弐丁目十番地
本家本舗　高木清吉

東京　寫眞所　池之端仲町　ひめや

選醅獨擧　菓製不酔酒

東京　殖産興業社　廢物利用社　合製

右不酔酒ハ美熟ノ菓ヲ以テ製スル所ナレ𪜈壜栓ヲ開キテハ久ク貯フルヿ能ハズ故ニ成タケ早ク飲尽スベク止ヲ得ザル塲合ナラバ嚴重ニ栓ヲナシ置クベキモノトス

神田區田代町拾番地

地本錦繪問屋

寶林堂美濃屋大垣

東京 吉 名産

新版繪入本類品々 草双紙品々

習字本類品々 千代紙志形々

下谷區數寄屋町拾五番地

地本錦繪類品々

野田支店 勝々堂

かるた類品々 小間物文具

團扇類品々 銅版類品々

現金 安賣

伏

地本錦繪問屋

御流行之千代紙色々 錦繪摺物菓子袋 團扇類品々 其外錦繪色紙

下谷池之端仲町

伏見屋善六

現金 安賣

大

色ずりの入物流行中よろし

團扇 地本

東都錦繪所

東京神田區通佳町四番地

松岡堂

諸紙類一切不仕候

現金

東京日本橋通壹丁目

和漢書籍
東錦繪問屋

錦榮堂 萬屋
大倉孫兵衛

現金

繪本 讀本 諸雑誌 千代紙 品々

東京
東錦繪問屋
名産

上野御成道神田松富町四番地
芳壽堂 山口芳

勉強

地本繪雙紙問屋

[illegible]

東京下谷區池之端仲町通
團扇製造所
松根屋良八

現金 正札

[illegible]

呉服 太物 問屋

[illegible]

廣告

一 和漢洋書籍ハ勿論之外ニ現品ヲ多ク道ニ遠近ヲ問ハズ御取寄ニ因リ至テ精々高價ニ
甲受可仕候事

一 各種ニ新古本及ビ絵図書入精々御精々低價ニ賣捌可申候

一 新錦ヨリ古版ノ古本ニ至ル迄御用ニ叶フ割引勉強ノ上月々賣出シ[illegible]
並ニ歴史[illegible]時々其[illegible]
ニ可仕候事

書林 日本橋区本石町二丁目十六番地
古本理學[illegible]
錦光堂

今般縁家伊丹醸造元平井方ヨリ弊家西隣ヘ支店ヲ設ケ新銭
廣告ノ通開業段仕候間多少ニ不拘
不論御購求ノ程偏ニ奉希望候也

月日 淡路町五丁目 澤

西洋小間物器

大安賣 松屋善八

東京両国廣小路 旭馬車会社 千葉佐倉[illegible]

千葉	成田	佐倉
時	午前八時三十分	午后一時三十分

現金 正札

[illegible]

問屋

[illegible]

廣告

一和漢洋書籍何品ニ不限現品ニ乏シク道ニ遠近ニ拘ハラス御註文ニ因リ取寄精々高價ニ申受候事

一各種之新古本及ヒ掛物書入精々低價ニ奉賣上候事

一新板錦絵より新古各種ニ至ル迄品々取揃置候間多少ニ不拘御求メ被下度奉希上候事

書林 日本橋区本石町二丁目 十六番地

古今珍書 出版 錦光堂

今般錄家伊丹醸造元半井方ヨリ弊家西隣ヘ出店ヲ設ケ茶銭

廣告ノ通開業候間多少ニ不拘

御購求ノ程偏ニ奉希上候以

月日

新銀座[illegible]丁目

東京 千葉 成田 佐倉 両国川

旅人 荷物 東京両国廣小路

旭新開丸 往復

出船 時間 前 八時 本 七時

後 二時 一時

現金

西洋小間物品々

池之端仲町南側

大安賣 松屋善八

懷舊會會員宿所錄

東京横濱ニ在テ毎歲二回相會スルモノ

明治十九年十二月改

麴町區土手三番町十三番地	明石退藏
本郷眞砂町十二番地	足立寬
京橋築地三丁目四番地	花房義質
神田區駿河臺北甲賀町九番地	池田謙齋
本郷區龍岡町十三地番	今村有隣
赤坂區赤坂丹後町一番地	吉雄敦
麴町區富士見町二丁目四十三番地	石坂惟寬
京橋區釆女町廿一番地	伊東盛貞
神田裏猿樂町六番地	保田東潜
芝區兼房町十三番地	鏑木融
芝區芝櫻川町二番地	河野呈甫
麴町區三番町三十六番地	北尾漸一郎
白金臺町一丁目廿六番地	古賀晋介
神田區小川町六十四番地	草野元養
下谷上野花園町七番地	收山偕卿
日本橋區南茅場町五十八番地	眞島襄一郎
芝區芝公園地四十一號	本野盛亨
赤坂區赤坂一ッ木町八十一番地	長與專齋
牛込區北町十二番地	永田宗郁
淺草區新平右衛門町一番地	中山信安
淺草區南松山町廿一番地	西川泰
	野村文夫
	緒方惟準
	緒方道平
	緒方惟孝
	小野義眞
	大鳥圭介
	坂本政均
	佐野常民

麻布區東鳥居坂町二番地	本野盛亨
淺草區藥久町三十四番地	西川泰
芝區南佐久間町二丁目十二番地	緒方道平
芝區西久保城山町五番地	坪井信良
麴町區富士見町四丁目九番地	河野通獻
麴町區三番町廿九番地	荻原三圭
神奈川縣横濱大田英町一丁目	松口榮造
地方轉居	
大阪	緒方惟準
同	緒方惟孝

神奈川縣相撲區大住郡馬入村	杉山泰助
牛込市ケ谷砂土原町二十番地	澁谷良次
深川區佐賀町二丁目堀田邸内	神保良肅
本郷區丸山阿部邸内	佐澤太郎
淺草區向柳原町一丁目三十五番地	高松凌雲
下谷區練塀町六十一番地	田代基德
芝區西久保山城町五番地	坪井信良
芝區三田貳丁目十三番地	福澤諭吉
麴町區飯田町一丁目八番地	舟曳淸修
京橋區木材木町三丁目二十四番地	戸塚文海
麴町區内幸町二丁目五番地	渡忠純
麴町區上二番町二十四番地	河野通獻
麴町區飯田町四丁目二十三番地	阪倉郁造
鴻ノ臺敎道團病院	原田適
牛込區揚方町九番地	中司俊哉
芝區三田二丁目十三番地	松口榮造

會員ニシテ地方ニ散在スルモノ

名護屋	巖谷龍一
長崎	西岡逾明
札幌	松岡勇記
福井	中定勝
	長瀬時衛

鬼籍ニ上リタルモノ

嶋村鼎甫　伊藤愼藏
波多潛哉　柴岡孝德
石井信義　坂本德之
箕作秋坪

退會

杉亨二　大野恒德
山口良造

細末
上製食塩

懷舊會會員宿所錄

東京橫濱ニ在テ毎歳二回相會スルモノ　　明治十九年十二月改

麴町區土手三番町十三番地　明石退藏
本鄉眞砂町十二番地　足立寬
京橋築地三丁目四番地　花房義質
神田區駿河臺北甲賀町九番地　池田謙齋
本鄉區龍岡町十三地番　今村有隣
赤坂區赤坂丹後町一番地　吉雄敦
麴町區富士見町二丁目四十三番地　石坂惟寬
京橋區釆女町廿一番地　伊東盛貞
神田裏猿樂町六番地　保田東潛
芝區兼房町十三番地　鏑木融
芝區芝櫻川町二番地　河野呈甫
麴町區三番町三十六番地　北尾漸一郎
白金臺町一丁目廿六番地　古賀晉介
神田區小川町六十四番地　草野元養
下谷上野花園町七番地　牧山脩卿
日本橋區南茅場町五十八番地　眞島襄一郎
芝區芝公園地四十一號　本野盛亨
赤坂區赤坂一ッ木町八十一番地　長與專齋
牛込區北町十二番地　永田宗都
淺草區新平右衛門町一番地　中山信安
淺草區西松山町廿一番地　西川泰
神田雉子町三十一番地　野村文夫
神田猿樂町二丁目五番地　緒方惟準
本鄉區駒込上富士前町八番地　緒方道平
本鄉區弓町二丁目三番地　緒方惟孝
淺草區橋場町五番地　小野義眞
白金三光坂上　大鳥圭介
神田區駿河臺北甲賀町十七番地　坂本政均
裏霞ケ關三年町二番地　佐野常民

神奈川縣相模區大住郡馬入村　杉山泰助
牛込市ケ谷砂土原町二十番地　澁谷良次
深川區佐賀町二丁目堀田邸內　神保良肅
本鄉區丸山阿部邸內　佐澤太郎
淺草區向柳原町一丁目三十五番地　高松凌雲
下谷區練塀町六十一番地　田代基德
芝區西久保山城町五番地　坪井信良
芝區三田貳丁目十三番地　福澤諭吉
麴町區飯田町一丁目八番地　舟曳清修
京橋區木材木町三丁目二十四番地　戶塚文海
麴町區內幸町二丁目五番地　渡忠純
麴町區上二番町二十四番地　河野通獻
麴町區飯田町四丁目二十三番地　阪倉都造
鴻ノ臺教導團病院　原田適
牛込區揚方町九番地　中司俊哉
芝區三田二丁目十三番地　松口榮造

會員ニシテ地方ニ散在スルモノ

名護屋　巖谷龍一
長崎　西岡逾明
札幌　松岡勇記
福井　中定勝
長瀨時衛

鬼籍ニ上リタルモノ

嶋村鼎甫　伊藤愼藏
波多潛哉　柴岡孝德
石井信義　坂本德之
箕作秋坪

退會

杉亨二　大野恒德
山口良造

細末
上製食塩

本郷衛生會設立之主旨

嗚呼禍患ヲ未萠ニ消シ災害ヲ未發ニ制スルハ知者ノ先務人生闕ク可カラサル要件ニシテ是衞生會ノ起サヽル能ハサル所以ナリ抑人ノ世ニ在ル疾病憂患百端ナルモ其慘毒虎列剌病ヨリ甚キハナシ本年夏秋ノ間全國諸道流行二十餘縣ニ及フ而シテ東京府下ヲ最モ多シトナス人民死亡途ニ相望ム十數年來本年ヨリ甚シキハ無シ我本郷區ノ如キ土地高爽空氣清淑ナルモ猶且死亡數百人ノ多キニ至ル衞生ノ道其忽諸スヘケンヤ今ヤ時節漸ク冷カニ病勢日ニ衰フ久シカラスシテ殆ント將サニ滅盡セントス家々防禦ノ方隨テ前日ニ若カサルモノアランヤトス是亦勢ノ免ルヽ能ハサル所ナリ夫春華ノ爛熳觀ルヘキモノ未タ曾テ根氣ヲ嚴冬霜雪ノ時ニ培養セサルコナシ然ラハ則明年ノ惡疫亦本年ニ胚胎セサルコナキハ照然顯著知者ヲ待タスシテ知ルヘキナリ本會豫メ之カ規畫方法ヲ定メ今ヨリ其地ヲナサヽルヘカラス然ルニ其目的ヲ達セント欲セハ惟演説討論ノミノ能スヘキ者ニ非ラス故ニ主トシテ之ヲ實際ニ施サントス仍テ本郷全區ヲ割シテ本郷湯島駒込及根津ノ三部トナシ會長一人副會長二人ヲ置キ書記三人ヲ属シ毎部五名ノ幹事ヲ撰擧ス職員凡廿一人分レテ三部トナリ合シテ一部トナリ分擔事ニ從フ抑本會組織ノ他區ニ異ナル所以ノモノ聊微意ノ存スル所アリ辭スル能ハサル所ナリ又別ニ名譽會員若干名ヲ置キ學術名望アル者ヲ擇ンテ之ニ充ントス夫本郷ノ區タル京城ノ北門ニ位シ高ニ據リ卑ニ臨ム其地位ヲ以テスレハ多ク他ニ讓ラサルナリ而ルニ本年ノ如ク惡疫區內ニ流行シ死亡數百人ニ至ルハ衞生ノ道未タ全ク備ラサルニ之レ由ル是此會ヲ設立スルノ主旨也雖然戸毎ニ說キ人毎ニ勸ムヘカラス今ヤ規則ヲ定ムルニ當リ其組織ノ梗概創立ノ原意ヲ述ヘ普ク公衆ノ加盟ヲ望ムト云爾

明治十九年十月

本郷衞生會

本郷衞生會役員

會長　長谷川泰
副會長　北澤正誠
同　入江惟一郎
幹事
本郷部　万木九兵衞　加藤照郷　松南宏雅　內藤兼則　北村徹
湯島部　安藤俊明　松本操　青木匡　阪口繁輔　田中重雄
根津駒込部　福島甲子三　豊川良平　鈴木清次郎　木村正勝　山口輪太郎

附言
一會費ハ[illegible]
一入會御[illegible]呈ス
一加盟[illegible]御申出アリタシ

廣告

故紀藩畔田翠山源伴存先生撰

一 古名錄　全部八十五卷合本四十三冊　外ニ總目錄一冊 以呂波引一冊

是書ハ水、鹵石、火、金、玉、石、土、彩色、草、木、竹、菜、果、蓏、蕈、穀、蟲、魚、介、禽、獸、人、魑魅、飲食ノ二十四部ニ大別シ毎部細目ヲ設ケテ上ハ六國史ヲ始トシ歷代ノ記傳本草字鏡倭名鈔萬葉集ヨリ近クハ天正慶長マデノ國典歌書ヲ引用シ普ク宇宙萬物ノ名稱ヲ博考シ其漢名ハ本草書府縣志字書等ニ據リテ詳ニ之ヲ正シタル者ナレバ博物學ヲ修ムル諸賢ハ言フニ及バズ和漢洋百科ノ學ニ通ジテ坐右必備ノ良書ナリ今ヤ田中芳男先生版權所有ノ翁ガ自筆ノ原本ニ據リテ別紙版式ノ通毎月一冊ヅヽヲ印行セ同志ノ諸彥ヘハ特ニ毎冊定價金三十錢ノ三割ヲ減ジ即チ金二十一錢ヲ以テ貴囑ニ應ジ候間（但府外ハ書籍遞送費ヲ受ク）來ル三月二十一日迄ニ本社及ヒ左ノ賣捌所ノ内ヘ御申越アランヿヲ乞フ謹白

明治十八年二月

印刷製本賣捌元　日本橋區兜町壹番地　製紙分社

賣捌所　同通三丁目十四番地　丸家善七

農工商 圖書月報

每月壹回發行　無代價

本報發行ノ旨趣

方今我國ノ奎運日ニ月ニ隆ナルノ時ニ際シ圖書ノ新ニ發售スルモノ汗牛充棟實ニ啻ナラサルノ勢アリ然ルニ其價格ノ甚貴キ常ニ他物ト權衡ヲ失シ世人ヲシテ未容易ニ希望ヲ滿タス能ハサラシムルハ果シテ何カ故ナルカ蓋廣告十分ナラサルカ故ニ發賣部數少ナク發賣部數少ナキカ故ニ印版費廉ナラサルニ因ルナラン但新聞紙ノ廣告ヨク之ヲ十分ナラシムルノ効力アルモノヽ如シトイヘ𪜈其掲載スル所廣ク百般大小ノ人事ニ亘リ薰蕕玉石相混シテ爲メニ世人ノ採擇ニ便ナラス加フルニ廣告料ノ甚貴キ止ニ新出圖書ノ比ニ非ス是圖書ノ廣告常ニ十分ナラスシテ世上幾多ノ良圖書猶廣ク知ラレサルモノアル所以ナラン本舖圖書ノ業ヲ營ム年アリ殊ニ其殖產興業ニ係ル品類ヲ專トシ聊富國饒家ノ一端ニ致サンヿヲ企圖ス既ニ江湖大方ノ愛顧セラル、所ナリ今マタ茲ニ官允ヲ得テ此月報ヲ發行シ自今以往凡農工商業ニ係ル大小精粗ノ圖書ハ其題名著譯人名ヨリ冊數、代價、略解等ニ至ルマテ要ヲ撮テ悉臚載シ代價ヲ要セスシテ廣ク四方ノ望ニ應シ大ニ本舖ノ目的ヲ擴張シ併セテ此月報ト共ニ益良圖書ノ世ニ普及センヿヲ企圖ス

（規則書ハ裏面ニアリ）

古名錄卷一

紀藩　畔田翠山源伴存撰

水部

丹鉛總錄曰水者五行之首也萬物之宗也浮天而載地載形浮氣也始于天地而終于天地也七十二候始于東風終于水澤腹堅天地之始終亦若是而已矣𥨸泉小品曰積陰之氣爲水

天水類

由吉（ユキ）　萬葉集　〔漢名〕雪　蠡海集　〔今名〕ユキ

蠡海集曰雪者雨之凝也因高而寒極故雨凝爲雪也其雨雪相雜者雪有高低之異也低者則爲雨高者爲雪名物攷曰大

府縣　國　郡　町村　番地

約定人

明治十八年　月　日

東京兜町壹番地

製紙分社　御中

廣告

生撰

…部八十五卷合本四十三册　外ニ總目錄一册　以呂波引一册

…草、木、竹、菓、果、蓏、葷、穀、蟲、魚、介、食、獸、人、魑魅、飲食ノ二十四部ニ大別シ每

…始トシ歷代ノ記傳本草字鏡倭名鈔萬葉集ヨリ近クハ天正慶長マ

…學　年　二　月

一此月報ハ每月一回發行シ何人ヲ論セス一人ニ每號一部ヲ限リ無代價ニテ其ノ望ニ應シ進呈スルモノトス故ニ要望ノ諸君ハ豫メ郵便税（一ケ月壹錢一ケ年拾貳錢）ヲ本舖ニ御送附アラハ發行ノ都度直ニ郵送スヘシ

但シ東京府内ト雖圧本項ニヨリ豫メ郵便税ヲ御送付ナキ分ハ郵送セサルヘシ

一此月報ハ本舖發行ノ勸農叢書同盟員ニハ每號壹部ヲ限リ郵便税ヲ本舖ニ於テ支辨シ送呈スヘシ

但シ本舖ニテ要用ト認ムル向キヘハ同盟員外ト雖圧郵便税ヲ本舖ニテ支辨シ臨時遞送スルヿアルヘシ

一此月報ニ掲載スル圖書ハ總テ本舖ニ於テ發賣スト雖圧他人ノ出版ニ係ル圖書ニシテ豫約ヲ果サス中絕ニ屬スル等ノ責問ハ固ヨリ本舖ノ任セサル所トス尤此ノ如キ場合ニ方リ其既受ノ金圓アリ又既送ノ圖書アルモノハ既受ノ金圓中ヨリ既送圖書ノ代價幷ニ遞送費等ヲ除去シテ直ニ殘金ヲ返戻スヘシ

一此月報ニ農商工圖書ノ廣告文ヲ掲載セント欲スル人ハ廣告文ニ其圖書壹部ヲ添テ賣捌ヲ本舖ニ御依賴アルヘシ然ルトキハ代價ヲ要セス望ニ應シテ廣告文ヲ掲載スルモノトス

但廣告文ハ勉メテ簡約ナルヲ要ス故ニ本舖ニ於テ或ハ其ノ原稿ヲ刪除取捨スルヿアルヘシ

一此月報ニ掲載スル廣告文ハ題名明朝二號活字其他ハ同五號活字トシ木版、圖画、輪廓等ヲ插入スルヿハ總テ謝絕ス

明治廿年一月

東京々橋區南傳馬町貳丁目拾三番地

發行本舖　有隣堂　穴山篤太郎

戴禮云天地積陰溫則爲雨寒則爲雪春秋元命苞曰陰陽凝爲雪曾子曰陰氣勝則爲雪釋名云雪綏也水下遇寒而凝綏綏然下也黃氏日抄曰晦庵語類雪是雨結而遇寒而凝故高寒處先結雪花六出者霰被風拍開雨航雜錄曰愚謂雪者陰氣所積當冬而雪陰得其令亦豐之兆若雪太多陰氣過盛則爲水徵物理小識曰寒月則雨凝于上體因風相襲成雪河圖聱燿鈎曰十月立冬爲節者冬終也立冬之時萬物成爲節名小雪爲中者氣序轉寒雨變成雪故以小雪爲中也正字通曰雪流也洗除瘴癘蟲蝗蒸泉小品曰雪者天地之積寒也

（一名）由棗　萬葉集卷第五曰能許利多流由棗

仁末自列留。烏梅能半奈。半也久奈知利曾。由吉波氣奴等勿。同卷第十四曰由吉可都麻思自云云同卷第十七曰布流由

官衙學校其他西洋舘

船舶内必要販賣品目錄

○絨緞并ニ羅仙其他諸敷物類

○窓掛并ニ日覆幕地類

○膝掛并ニ馬車掛類

○蒲團并ニシーツ地類

○タワー并ニナフキン類

○ケット

○ズック

○靴拭并ニマット類

○但し見本等御入用の方は端書にて御申越次第見本持參可致候

京橋區尾張町貳丁目十四番地

宮内省御用達　木平商店

古名錄購求約証

一古名錄四拾五册ヲ每月壹册ツヽ貴社ニ於テ印行發賣相成ニ付廣告ノ如ク割引廿壹錢ヲ以テ每月購求致度相約候儀相違無之候也

府・縣　國　郡　町村　番地

約定人

明治十八年　月　日

東京兜町壹番地

製紙分社

御中

擴業社規則

第壹條　本社ハ世ノ興業家ノ爲メニ諸品ノ製造法其他百般ノ技術秘法等ノ傳授幷ニ施法及ヒ施工中ニ起ル變動ノ質問說明ニ從事シ我國工業ノ進歩ヲ助ケ國益ヲ計ルヲ以テ目的トス

第貳條　傳授ヲ爲スニハ詳細ナル方法書ヲ附與シ尚口述ヲ以テ丁寧ニ傳授ス

但シ地方ハ方法書ノ外詳細ナル仕樣書ヲ附シ一目シテ瞭然タラシム猶不審ノ廉アラハ報知次第速ニ詳細說明スベシ

第三條　傳授ヲ受クル者實地試驗ヲ望ム向ハ本社ニ於テ試品ニ就キ試驗ノ上傳授スベシ尤モ右ノ塲合ニ於テハ試驗入費幷ニ手數料ヲ收ムベシ

第四條　謝金ハ傳授ヲ受クルノ前三割ヲ收メ傳授ヲ受クルノ後チ殘金ヲ收ムベシ若シ本社ニ於テ傳授セシ方法其効ナキトキハ謝金ハ返還スベシ

但シ地方ハ申込ノ節謝金ノ全額郵便爲替券ニテ拂込ベシ

第五條　傳授料ハ種類ニ依テ一定シ難シト雖ﾄﾞ其大略ヲ掲グルコ左ノ如シ

一諸品製造法　金壹圓以上
一諸　技　術　金貳圓以上
一諸　秘　法　金五十錢以上
一工事製造法質問說明ハ　金壹圓以上

第六條　諸品製造法トハ和洋酒類香水香油各色インキヴーニツシ墨石鹼繪ノ具其他藥品等ノ製造法ヲ云フ
諸技術トハ寫眞術圖畫複寫術鍍金術其他染色法等ノ類ヲ云フ
一諸秘法等ハ肉類菓物類等ノ罐詰法及ビ貯畜法其他百般ノ秘法ヲ云フ
一工事製造法ノ質問トハ前述ノ諸法及ビ製造工事中ニ難解ノ變アルハ其事變ヲ說明シ改良ノ法ヲ示スヲ云フ

第七條　一時ニ數種ノ傳授ヲ受クルトキハ所定ノ謝金ヨリ減額スルコアルベシ

東京神田區
美土代町二丁目一番地
擴業社

廣告

牛乳ノ滋養ニ功アルハ普ク人ノ知ル處ナレハ爰ニ喋々ヲ要セス近來世上何業ニ限ラス一般不景氣ナルニ獨リ牛乳販賣ノ一途ニ至リテハ毫モ之カ影響ヲ蒙ラス日ニ月ニ盛熾ニ趨キ商業社會特ニ嶄然頭角ヲ顯ハシ人間必需欠ク可ラサルノ物ト仰カル丶ニ至リシハ我儕同業ノ榮譽何ヲ以テカ之ニ加ヱン實ニ欣喜雀躍ノ至リニ堪ヘス就テハ猶一層本業ノ改良ヲ圖リ購求諸君ノ爲メ精々冗費ヲ省キ專ラ廉價ニテ御需用ニ供セント欲シ今回更ニ勉强ノ上左ノ割引キ方法ニ規定仕リ候間江湖愛顧ノ諸君舊ニ倍シテ陸續御購求アランヿヲ希フ

定價

一牛乳壹合代價三錢
一同　五勺代價壹錢五厘
一バタ壹斤價五拾錢

割引

一牛乳五勺ツヽ一ヶ月壹升五合ニ滿レハ壹合ニ付代價二錢八厘ノ割
一同壹合ツヽ一ヶ月三升ニ滿レハ壹合ニ付代價二錢五厘ノ割
一同貳合ツヽ一ヶ月六升ニ滿レハ壹合ニ付代價二錢四厘ノ割
一同五合ツヽ一ヶ月一斗五升ニ滿レハ壹合ニ付代價二錢二厘ノ割

但シ貧窮ニシテ購求難相成方ヱハ事情ニ依リ定價ノ半額若クハ無代價ニテ差上候間此段併テ廣告ス

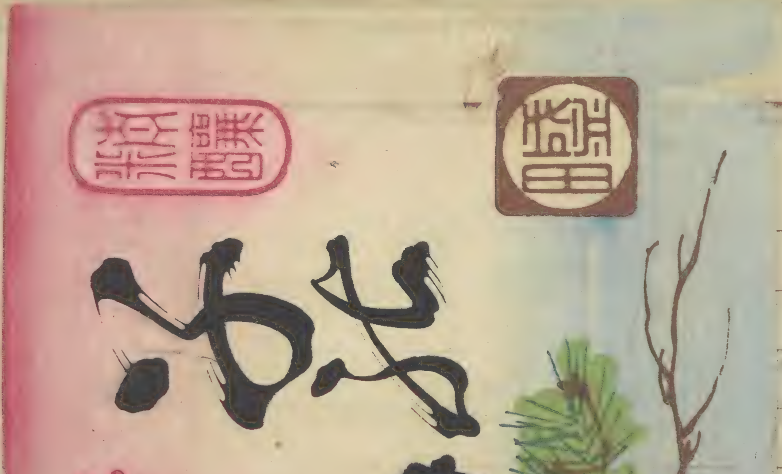
月　日

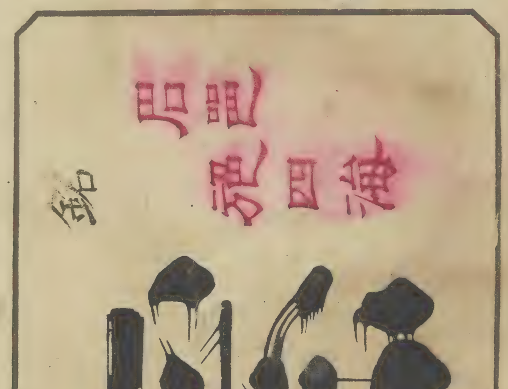
本郷富坂下
眞砂町三拾七番地
牛乳所　横井

磐郡 名産濁酒

此濁酒ハ其の味ひ 砂糖を加へず
製せしものにあらされバ常に清酒
に勝り 活用ひあれバとて
胃の働きを傷ふ事なく
のみならず麦粟の如き天然の
甘美を備へたる滋養あるものを
用ひ精製したる品なれバ能く食物
を消化し爾来濁酒とあり
といふ地方には特に健全を補翼
せしき使用ある者ハ此醸造品を以ふ
の諸君は清濁共に浴後に清用し
あらバ無病壮健なる事
疑ひなし何卒御試み之上 澤山
御注文あらん事を

發賣元
上町磐部舗宮場
山福商店





上
さくら餅

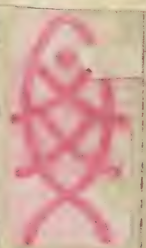
常陸
信太郡飯田村
大日本農會特別會員
酒井為太郎

山海蔘
御料理

芝口
弐丁目
いせ源

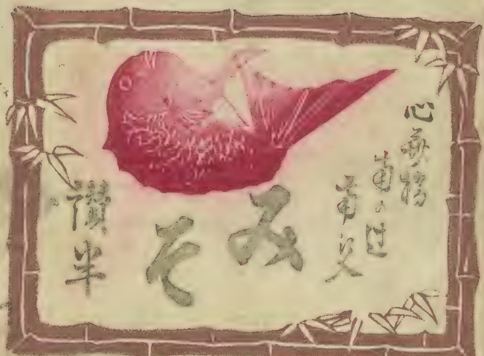
芝三田
二ノ宮鉄五郎
壱丁目

蘭件
玉子件
細工豆腐
品々
蘭鉾 表面紅色 竹輪蘭鉾
梅干 揆ノ作り 銀杏ノ
周田
二十年二月廿七



千葉縣下下総
生魚
粟漬
銚子湊名産

諸國名産
販賣所
日本橋室町壹丁目
橋本氏



はくらんに
よ〜三丁め
角
ふ清きや

谷 茅坂下
名代
大むら

加茂川名物
亀佐

鈴木萬次郎先生賛言

衛生 滋養 菓子

母乳の友 豆羊羹

[illegible]

乳母いらず 母乳の友 豆羊羹

[illegible]

㊂ 豆羊羹 中村定七

芝區新櫻田町壹番地角

[illegible]

製造元 中村定七

芝區新櫻田町壹番地

中村定七

九形 三毛 六個

衛生 滋養

調進所

御菓子

芝區新櫻田町壹番地角中村定七製

梅花牡丹 三ツ 丸豆 [illegible] 五厘

連 三ツ 鶉豆 [illegible] 五厘

又す鶉豆 三ツ 七毛

角形 三ツ 五厘

上 円

芝區新櫻田町壹番地

中村定七

[illegible]

聽

不須期七椀一
啜去人痒何分
煮無抹當是玉
川流桃史

柳圃寫

摘り生し形代の京はこしハこそ
ひとけり世ふ棄を結ひ々れ
仙蝶友人に代りて　一行
仙果糖を賞して

樹店よりは数まうけまゐらせの
仙果糖をせにに江湖の清賞
をねかひまゐらせ候之文墨
請言に加へられ不相變
御恵顧を賜へよ志るし

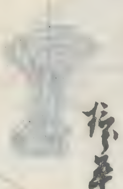
梧竹堂主人
酉軒

野州太田原
上町梧竹堂

仙果人間落那須至野生
何思逢妙手長得擅珠名
題仙菓糖

七十一翁　□堂

翠岳



椋平

人生波り蔭
露自壽物
水上影好松
泥流仙果糖
杏薮人

遠圃

ちくさ世費の君
まつ多き御代に
仙蝶先生の壽をいふ

け□□□世とり
名を那須の
菓の年

陸松生

粋店
仙果糖を
と被…
精良…
待重顧…

不須期七椀一
喫去人降何分
煮無抹當是玉
川流機要

柳圃寫

残り生ム那須の京ぬすしいと
もらけり無不葉を語ひ之利

仙蹊友人に成くをまし
仙果糖を賞して　一行

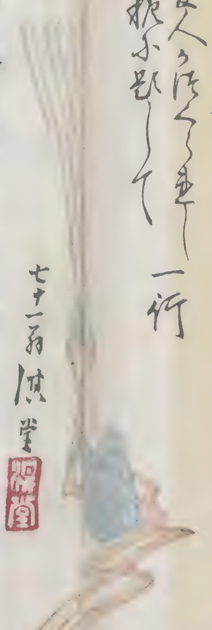
聽槑香煮茶

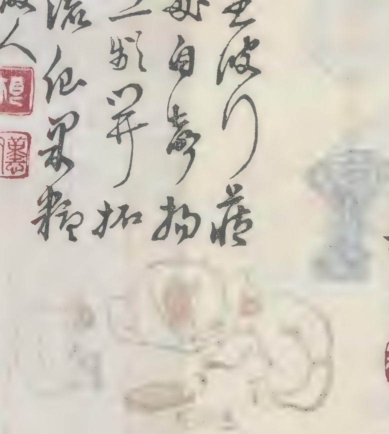
閒千仭

仙果人間落那須野生
何思逢妙手長作珠名
題仙菓糖

翠山氏

七十一翁　…堂





此是人生汲引處
二十人贊露白壽物
那須原上野州杯
先生風流仙果糖
蹄舟散人

標年

遠圃

ちかき世寿のせる
まつ多きの中に
仙蹊先生の寿く文

けふまで
世より
名を
那須の
菓の事

睡松生

名産

石見西田町

村上寒晒葛粉

熊谷七十郎

生魚粟漬

御菓子

浪華の蒲鉾處

大阪本店

[illegible]

製造所

大日本帝國福岡縣小倉產

軍用

味附馬刀

福岡縣小倉實町

小澤商館製造

肥後名産

太白朝鮮飴

肥後國熊本區
壺井米屋町
御菓子所
玉林軒
園田政治郎製

褒状寫

明治十年内國勧業博覧會

褒状

熊本縣管下
肥後國飽田郡米屋町
園田政治郎

朝鮮飴

透明ニシテ風味甘美ナリ製方老熟ノ妙アリ

右ノ事項ニ因リ褒賞アランコトヲ申請ス

審査官　主任　町田實則　印

列坐　武田昌次　印

同　池田謙藏　印

審査官部長　正六位田中芳男　印

審査官長　正五位前島密　印

右審査官ノ薦告ヲ領シ之ヲ褒賞ス

明治十年十一月廿日　内務卿從三位大久保利通　印

肥後名産　朝鮮飴

元祖製造所　園田政次郎

抑此飴本縣下熊本區ノ名産なる由來を語るに予か家ハ往古より當地に住居するに熊本ハ飽田郡に在て東南ハ託麻下益城の兩郡に堺ひたり其兩郡中なる牟田に植る糯米の質飴を造るに最上の品なる故其上品中より猶又た精しくゑらひて寒中水干したるものと同し糯米を極上白に精けて水飴を製し同縣下天草郡の産甘蔗製の砂糖を加へ製造するに四季に變る寒暖の度に應し其分量に一家相傳の秘術有て且大白上白中白並下等も五段に分ちて風味代價も又差違あり然ハ之を肥後飴と唱へし處加藤清正公當國の守たる乃際尤賞翫ましまし平素御座右に絶す御備へ朝夕御茶乃友に喫ひ玉ひ或は御客へも進めさせしの朝鮮御出陣の節も多分御持越しの處萬里の波濤を凌き數旬月の久しきを經ても腐敗乃憂へ無く却て風味は美を増すに至てぬ又豫て食ふに糯米製なる故第一人の健康を助くれて長生飴とも稱したりさて朝鮮にて軍人に與へ將た擒となりし王子及ひ彼乃土人にも賜りたるに軍人は氣力精神を増し病災を除け朝鮮人も製造の善良風味の甘美なるを深く感賞し態々當國へ來り製造の法を授からんと懇願するの切なるを以て彼國へも教へたり然る後清正公の命に依て朝鮮飴と稱しなるを江湖の人の聞にも朝鮮ゟ習ひしものと云ふハ大いなる誤言なり加藤侯の後舊御領主様御用をも被仰付御賞味在らせられしのみならす徳川將軍家へ御獻上になり御國産は一種ともなりて如此來歴ある家傳乃飴なるを以て去る明治十年内國勧業第一博覧會を東京府下に開かせしに出品せし處外に同品も有しに特に褒賞を賜りしは予か家傳の製他に優りたる故と一層注意し愈念を入製しある處御購求舊に倍し御蔭を以て日に増し月を逐ひ繁栄仕幸威謝候尤諸方に大同小異の品多しと云へ共他ハ本家元祖ハ無之候て弊店の名號御吟味御風味増々御愛顧の程奉希候

熊本縣下肥後國熊本區坪井米屋町
御菓子製造所 玉林軒

明治十六年十二月十五日

園田政次郎

前顯の外蒸菓子乾菓子白羊羹紅羊羹上約亭其他食パン菓パン鶏卵パン御注文に應し製造仕候間續々御用向被御付被下度依テ奉希候尤御名所御吟味の上御求可被下候事

熊谷名産 中家寶

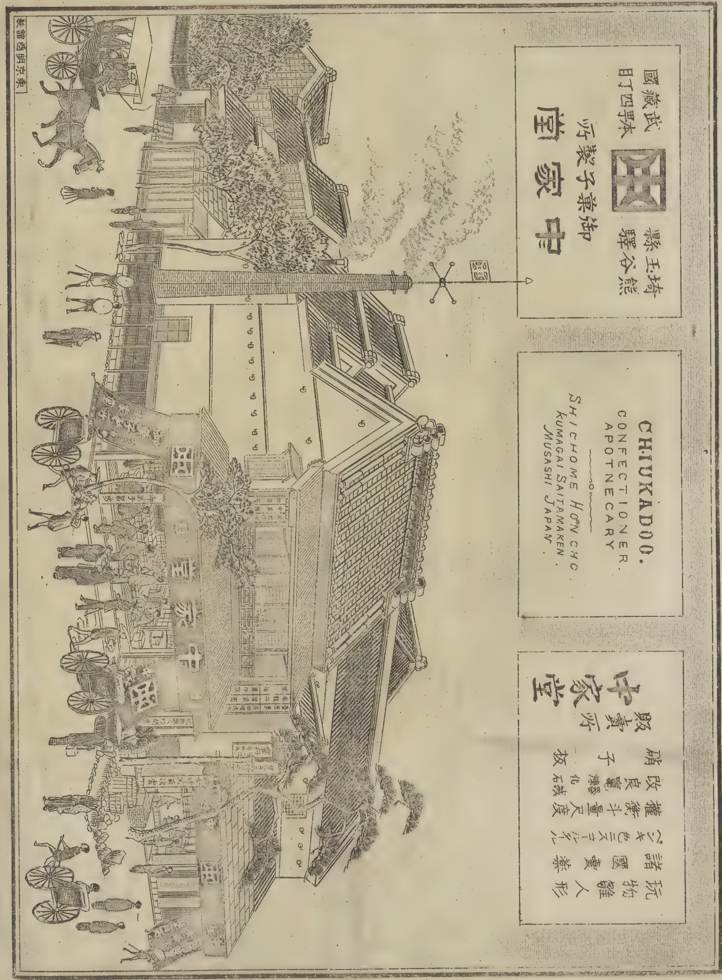
埼玉縣熊谷驛 武藏國本町四丁目
御菓子製造所
中家堂

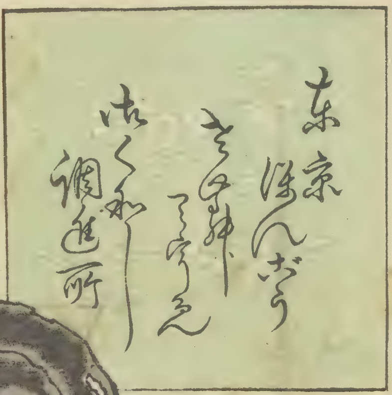
CHIUKADOO.
CONFECTIONER.
APOTNECARY
SHICHOME HONCHO.
KUMAGAI SAITAMAKEN.
MUSASHI JAPAN.

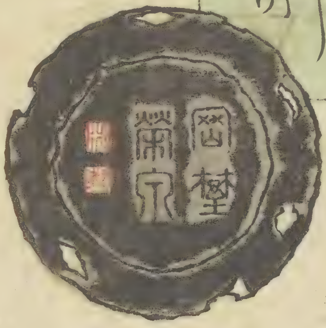
玩物雛人形
諸國賣薬
ペンキ色ニスコールタール
權衡斗量尺度
改良竈 煉化石 器械
硝子板
販賣所
中家堂

八十一番 81
従新橋大磯迄

九十九番 99
従新橋大磯迄







葛素麵

右ハ肥前國北松浦郡平戸村白銀町森新平の發明よして支那品よ比すれハ頗る良品也則私方よ於て製造致し候間多少よ限らす御購求の程奉願候也

但風味方の處ハ支那製と異なる事なしされど三府五港の外は支那製も未だ多くは開けざるが故よ其風味方を御熟知あきさ御かたさまのためよ爰よのすへし

○熱湯よ入れ少しく黒味を出し透能く成る迄能く煮これを引揚食せんとする時に冬なれバ湯夏なれバ氷又ハ冰よふろし砂糖を混んじて食するを常とす此外風味方ハ御家様方の御好みもあふん製方よもまさ色〻あり御註文よ應じ製すべし

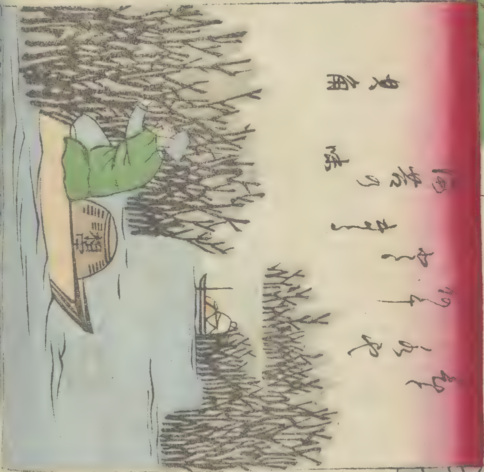
製造所　筑前國博多下新川端町　古藤文吾

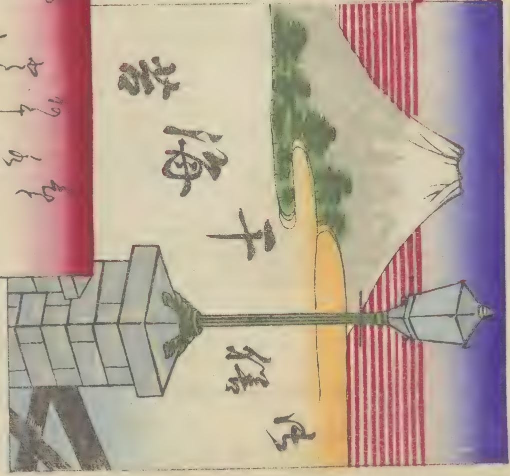
新發明

葛そふめん

肥前國松浦郡平戸白銀町
發明人　森新平謹製

筑前國博多下新川端町
製造所　古藤文吾





東京府下
神田淡路町

風月堂
御菓子調進所
穂積峰三郎

東之産艶佳
海名無之品

新製海苔本舗

浅草海苔所

谷中坂町手取橋脇
甲州屋銀次郎

紋亀砂糖製菓子

菜單

一 蝦子蘆筍
一 金針菜
一 鮑魚丸
一 鯨明骨
一 白汁魚翅
一 炒肉粿
一 炸魚捲
一 清湯餃子
一 東坡肉
一 炸雌辣
一 炒鶏丸

小菜 八様

八宝飯
杏仁湯

[illegible]

繪入 智慧の環 二編上 萬國畫の巻

明治三年

古川正雄著

明治六年改正再版

雁皮紙状袋

澳國博覽會渡航者
第三回親睦會紀念
ノ爲メ呈ス
石膏型陶製盃
明治二十年五月十九日 田中芳男

佐賀關特有名產
豊後土產
太田鰑
大日本水產共進會
二等賞銀牌下賜

和漢砂糖所
極上砂糖
三盆雪白
出島太白
砂糖漬
氷糖
麹町十三丁目
鮒屋半次郎

TOKIO JAPAN
東京下谷埋堀角
菓子舗廣木逢美製
SHITAYU
UMEBORI
CADO
KUWASHIMISE
HIROKISEI

本白砂糖

青玉神佛燈火用
燈明擦附木
請合公業社謹製

本家
御けぬき司
大阪新町橋東詰南側
本店 うぶけや
東京日本橋區人形町通よし町
支店 うぶけや

請合 正直

けぬき かみそり はさみ
よろぢ刃ものとぎなをしも
るたけやすく仕候

滋養香竄葡萄酒

農商務省 登錄商標 TRADE MARK
釀造元

賣捌元
農商務省 登錄商標 TRADE MARK

本品ハ發明以降多年ノ經驗ヲ以テ明治十四年始メテ之ヲ釀造シ直ニ官許ヲ經テ發賣致候處幸ニ江湖ニ高評ヲ得其味ヒ甘美且滋養分ノ多量ニテ衛生上欠クベカラザル世間無比ナル最良ノ滋養酒ト倍々ノ賛ヲ博シ日ニ月ニ需用ニ額ヲ増進シ方今ハ日々ニ數千本ノ販賣スルノ隆盛ニ至ル是諸君愛顧ノ致ス處深ク感謝ニ耐ズ然ルニ目今本品ニ摸擬シ通常ノ葡萄酒ニ砂糖蜜杯及ヒホシク香氣ヲツケ畜ニ需用者ヲ欺クノ策ヲ以テ販賣致候奸商有之候ニ付石等粗悪品ナルニ時調合物ノ類似品トハ素ヨリ[illegible]泥ノ相違有之處御同視相成候テハ大ニ本品ノ聲價ニ係リ候ノミナラズ第一御需用者ノ不幸ニモ相成候ニ付何卒本品ニ商ノ商標ヲ御注目アッテ御購求アランコトヲ伏テ奉冀候也

KOROGAKI KAIWOMEISAN

山梨名産

白柿

改良箱詰

山梨縣甲府柳町三丁目山岸榮兵衛

商標 工

KOUFU 山岸榮兵衛製 JAPAN

魚二豪心堂石印

廣告

小學文瀾

水曜日發行 定價金壹錢

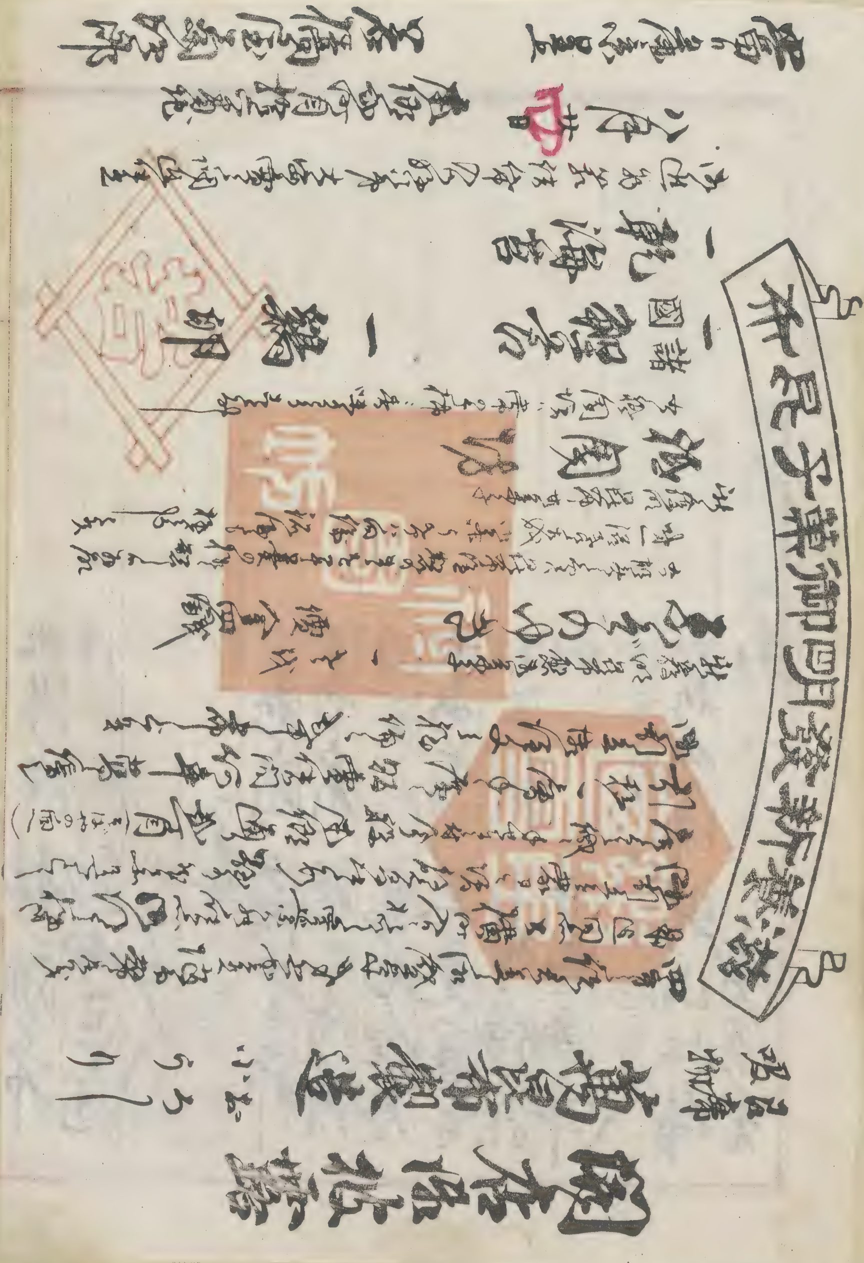
文章ハ經國ノ大業不朽ノ盛事ト魏文ノ言ヒシハ溢美ニアラス當世ノ巧業ヲ後代ニ傳フルモ文章ナリ千歳ノ下ニ生レテ千歳ノ上ヲ知ルモ文章ナリ官省ノ達令人民ノ願訴事物ノ記述日用ノ贈答等凡ソ世ニ立チ事ヲ處スル必ス文章ヲ須ヰサルナシ文章ノ功用豈ニ廣大ナラスヤ人タル者ハ必ス文章ヲ學ヒ且ツ巧ナラサル可ラサルナリ而メ之ヲ巧ニスルハ何如シテ得ヘキヤ曰ク看ルヿ多ク做スヿ多ク商量スルヿ多キ是ナリ小學生徒諸君ハ日々良師ニ親炙シ厚ク薰陶ヲ受ケラルト雖間接ニ看多ノ便ヲ得以テ做スヿ多ク商量スルヿ多ケレハ則文章ノ光ヲ增スヤ必セリ是ニ於テ今般生徒諸君ノ作文ヲ輯メ漢字ハ右傍ニ假名ヲ付シ熟語ハ左傍ニ解釋ヲ施シ以テ生徒諸君ノ參照ニ供セントス目今出願シテ許可ヲ待テリ請フ愛顧ヲ垂レテ購求ヲ辱クシ且ツ陸續玉作ヲ投寄アランヿヲ

附言 玉作投寄ノ節ハ校名級名姓名年齢ヲ詳記セラレヨ

明治二十年二月

大阪東區備後町二丁目卅七番地

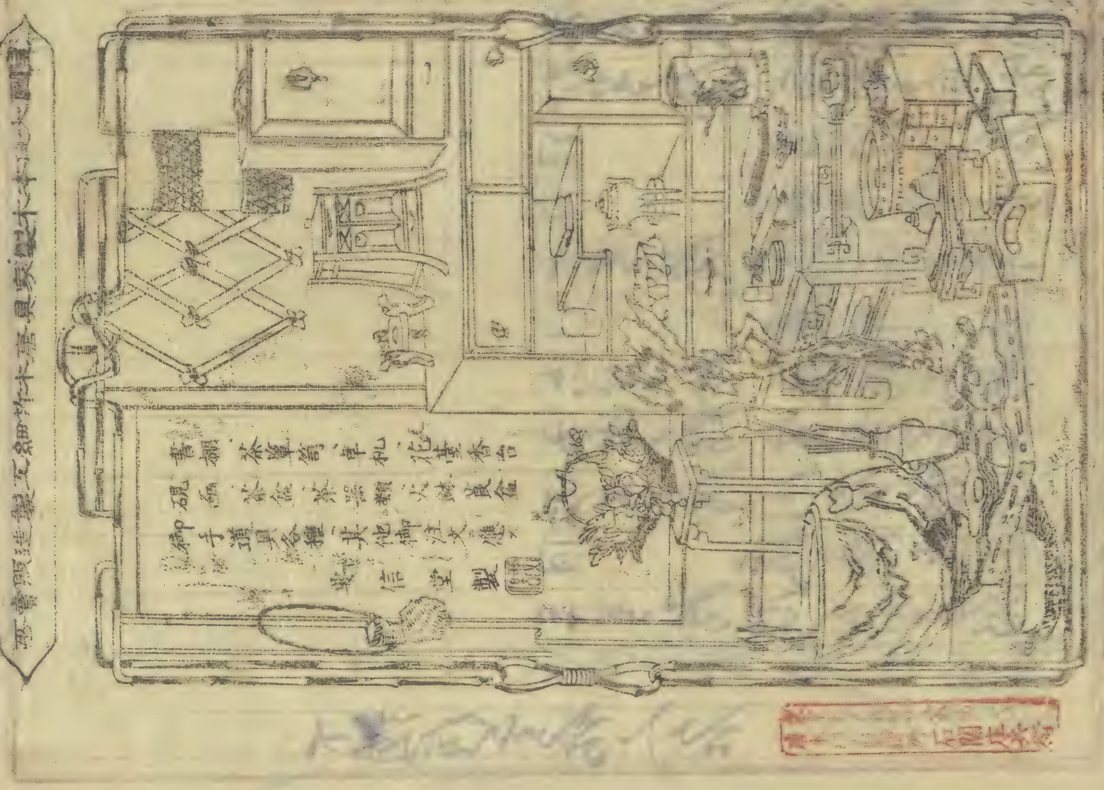
文瀾社 謹白



新發明擬革布　一名きれ地かゝ

弊廛儀従来紙製煙草入營業罷在候處江湖諸君の御愛顧を蒙り日増ニ繁榮に赴き候段不堪感謝候然るに我國近来諸事歐風ニ旨とし百般の器具皆舶齎を仰き候事ハ夙に諸君の熟知せらるゝ所なり弊廛爰ニ海外より乃輸入品ニ換用まる物品を製出して聊ヶ國益の万一を補ハんと欲し久しく苦慮焦心罷在候處近頃幸ニして一の新工夫を發明し絹若くハ布ニ展して之ニ奇製の塗剤を用ひ我邦固有の髹法ニ由りて西洋未曾有の諸塗物及び染革等乃觀を為さしむるを得たり且最も其製品ハ質柔軟ニして屈撓揉擦するも敢て剥屑の患ひへなく依て之を擬革布一名きれおかゝと稱し發賣仕候間尚舊ニ倍し陸續御愛顧の程偏ニ奉冀上候

東京日本橋區江戸橋側
竹屋　山本清藏謹敬



於内國勸業博覽會 賜賞牌

稟告

幣舗ニテ大發賣仕リ候體操器具之儀ハ專ラ堅良ヲ擇ミ且價モ他店ニ比較候得バ極メテ廉價ニシテ且其上定價ノ二割ヲ引下ゲ專賣仕リ候間御愛顧御購求之程偏ニ願度依テ御試ミ上堅良ナルノ虚言ナラサルヲ知リ給ハンコヲ

加藤主人敬白

右數品御注文ノ御方樣ヘハ專ラ稠密精巧ニ仕立一切吟味仕リ且廉價ヲ以テ調製仕候間何卒御愛顧ノ程偏ニ奉希候

東京神田區小川町一番地

指物商 洽集館 第一勸工場出品人 加藤良輔

愛子にすゝむる菓子ハ多くハ虫気をさそふへく茶
うけに上る口取りも耳されてハ益なきもの近ごろ西
洋菓子てふものゝて滋養をむねと用ゆる諸国人の
口に八合ハず茲に發明せる海味糖ハ其名の如く海
産物を原質として滋養に富み精製せるものなれバ
ハ虫気の障りもなく気根を強うし遠方へも
風雅の茶席にもまた相応たる良品なるを知る
いか程日を歴るも濕りを含む憂なく甚だ重寶の
親和をまして風味を増すなど遠方なきの贈土
産として奇妙なる可なる事殊に好く歓び
光も開から東西北より南の隅々まで大方
なる高評を備ふ敬ひ奉るを主人にかわり申す

翠軒 赤人

あてまいらす

發明 海味糖元祖 東京本橋區八丁堀岡崎町二丁目十八番地 洋々堂宮本謹製

滋養 同區銀座三丁目十番地文通誠睦社内 同支店

津軽塗改良並發賣御披露

堅牢 美麗

賞状

御買上

一等賞牌

宮内省御用達

品質改良

宮内省御用達津軽塗株式會社

銅版石版彫刻及印刷廣告

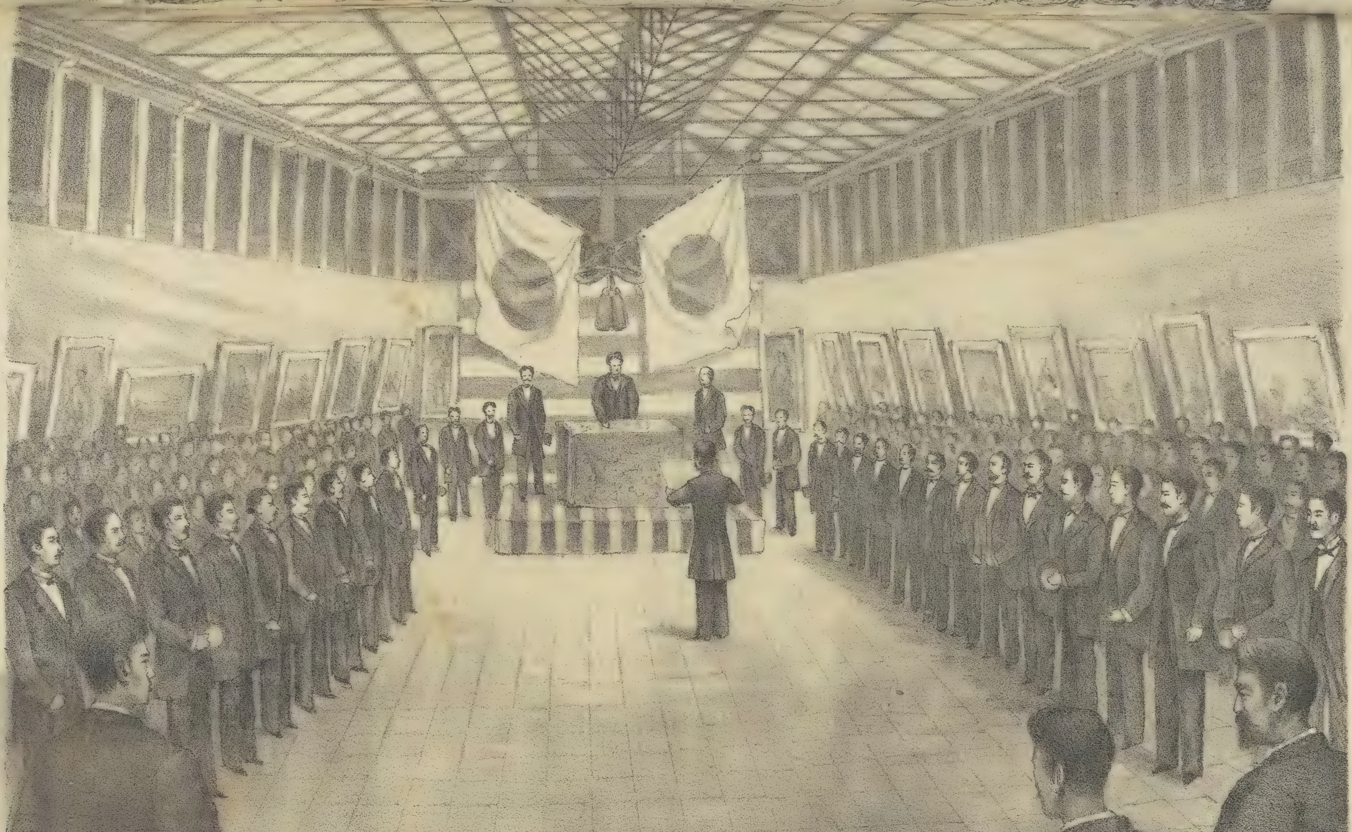
稟告

銅版技術ノ我カ皇國ニ行ハレシ始ハ文政ノ初年予カ父松田保居専ラ此術ニ從事シテ普ク世ニ擴張セント欲シテ各種ノ圖画ヲ製出シ大ニ世人ノ稱賛ヲ得タリ予カ其業ヲ嗣クニ及ンテハ其技術益々盛ンニシテ既ニ維新ノ際ニ至リテハ辱クモ官府ノ特命ヲ蒙リ太政官民部省其他ノ紙幣及ビ印紙等悉ク製造セシメラル爾後欧米諸國ノ技術ヲ傳習セシヨリ銅版ノ技術益々精妙ヲ極ムト云フベシ夫レ石版ノ如キハ明治三年予カ創メテ其術ヲ傳習シタルヨリ漸次内國ニ行ハレ今日ニ至リテハ銅版ト共ニ日用欠ク可カラサルノ具トナリ其業ニ就ク者モ亦大ニ増加セリ是レ予カ從来企望シタルノ結果ヲ得タルモノニシテ實ニ歡喜ノ至リト謂フベシ此ニ於テ益々其業ヲ勉勵シ銅石ノ両版ニ於テハ殊ニ其緻蜜精妙ヲ窮メ書ハ其筆法ヲ紊スヿナク畫ハ其真影ヲ失フナカランヿヲ主トシ既ニ明治十年内國勸業博覧會ニ於テ花紋賞牌ヲ賜リ明治十四年第二回勸業博覧會ニ於テ銅石版褒狀ヲ賜リタリ因テ今又其業ヲ盛大ナラシメンカ為メ専ラ其工ヲ精蜜ニシ勉メテ其價格ヲ低廉ニシテ以テ諸彦ノ意志ニ適センヿヲ旨トシ永久ノ愛顧ヲ蒙ランヿヲ希望ス

明治十九年　東京京橋區南鍋町一丁目一番地角
玄々堂 松田敦朝

ATSUTOMO MATSUDA GENGENDO TOKIO JAPAN.

PRINTER LITHOGRAPHER COPPER-PLATE AND WOOD-ENGRAVER.

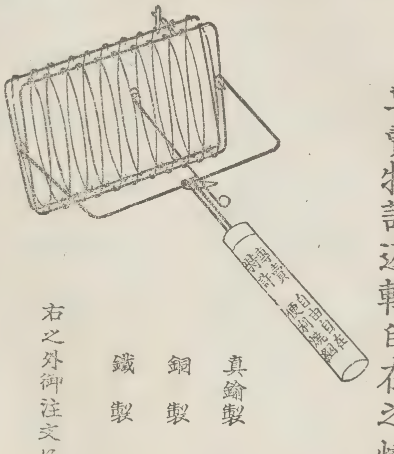


明治二十年五月九日

東京府五藝品共進會褒賞授與式之圖

玄々堂松田敦朝出品

專賣特許返轉自在之燒網



眞鍮製　大形
銅製　小形
鐵製

右之外御注文に應し製造仕候

右者明治十九年七月農商務省ヨ於て專賣特許を蒙り廣く江湖に販賣致候處諸君之御信用を蒙り日增隆盛に相成難有奉感謝候抑此燒網ハ從來の魚燒網之類にあらすして一度火ヨかさせバ其儘食物の鮮色美味を織さず表裏れして返轉自在ならしむ最も有益無比の良品にて常に魚鳥獸類之肉を食むの諸彥は實ヨ不可欠良品也故に自𫝶の辭言を不顧其焙燒ヨ輕便たる事を保証す

仍て本舖ハ勿論各大販賣所ヨ於て陸續御講求あらん事を奉希上候也

明治二十年三月

東京日本橋區南茅場町八番地
發賣本舖　鉄物店　吉田長兵衛

追伸
漸次各地へ差出し置候間御最寄にて御講求可被下候販賣御望之方へハ大販賣店に於ても本舖同樣廉價に御相談可仕候間陸續御注文奉願上候也

改良發明 便利小兒男女學校着廣告

今般私方ヨて發明致し候品ハ學校ゑ日々御通ひ被成候御子供衆方の體操あすヨ至極便利且安直にしてせんたくもきゝまそし持も中々宜しく候間四方の諸君早朝から御來車を奉待候

	本場目倉島極上等	上等アワチヾミ
一着丈一尺三寸	金廿三錢	金拾三錢
一仝一尺四寸	二十四錢	拾四錢
一仝一尺五寸	二十五錢	拾五錢
一仝一尺六寸	二十六錢	拾六錢
是ヨリカクシ付		
一仝一尺七寸	二十七錢	拾七錢
一仝一尺八寸	二十八錢	拾八錢
一仝一尺九寸	三拾錢	拾九錢
一仝二尺	三拾二錢	廿拾錢
一仝二尺一寸	三拾四錢	廿一錢
一仝二尺二寸	三拾六錢	廿二錢
一仝二尺三寸	三拾八錢	廿三錢
一仝二尺四寸	四拾二錢	廿四錢
一仝二尺五寸	四拾六錢	廿五錢
一仝二尺六寸	五拾錢	廿六錢
一仝二尺七寸	五拾四錢	廿七錢
一仝二尺八寸	五拾八錢	廿八錢

着丈より三すみじかきを學校着の定すとす

但切御持參仕立代一枚十錢より十五錢迄

右之外小倉地麻類縮類品數澤山御座候間御註文可被下候

又御遠方之御方樣ハはがき被下候ハヽ直に御屆け申上候

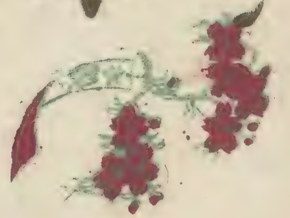
其節ハがき代御返納仕候

發明賣捌所　芝區芝口二町目八番地
大の屋金兵衛

賣捌所　同所三番地
大のや賣場

辰の口第一勸工場八号館中ほどに
出品有之候

東京

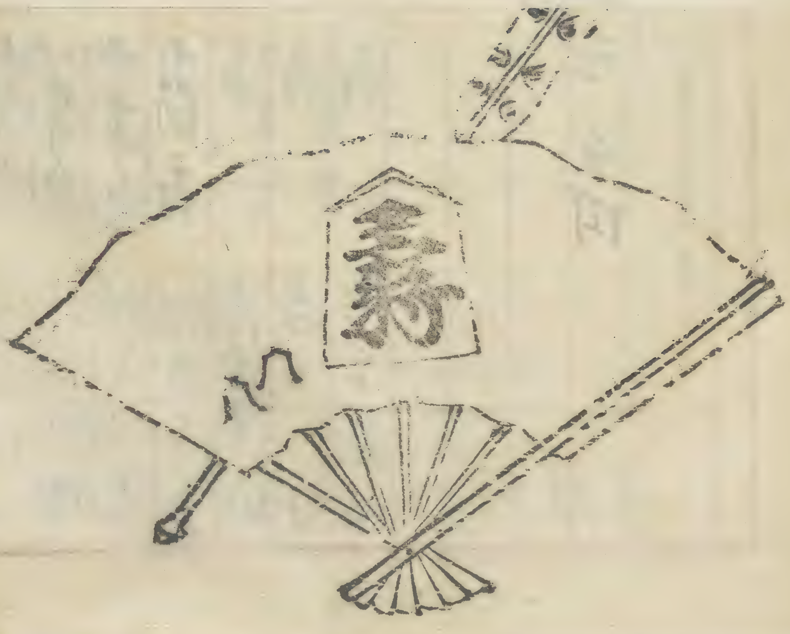


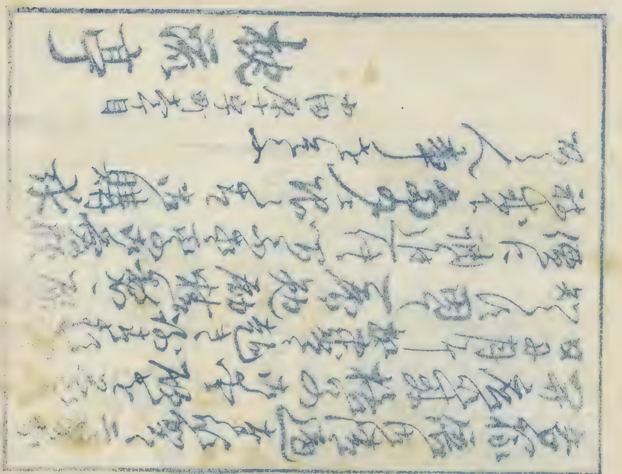
梳油さくら香

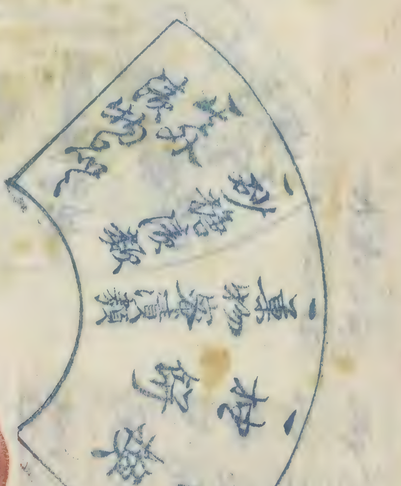
櫻香本舗
東京上野車坂町
守田重兵衛謹製

さくらの本舗
東京上野車坂町
守田重兵衛謹製

薄化粧御白粉







本郷圖書

西洋料理

牛肉 卸小賣

鶏肉

湯島切通し坂上

江知勝

牛肉

志やも

深川

本郷區湯嶋切通し坂下

豊國屋

岐阜提燈記

皮如蟬翼。骨如銀絲。形圓稍長。纖毫縷畫。秋芳疊錦。月影蟲聲。彷彿真景。點火其中。懸之於簷間。則清風颯來。涼氣滿室者何。岐阜提燈是也。岐阜提燈。創造於慶長年間。至德川將軍大猷公時。始見徵後尾張國主歲貢於幕府。以為例。其名大著。呼工匠曰御提燈屋。近世稍衰。製造麤惡。有州人勅使河原佐矩者。憂之。明治十年。與良工謀。稍復舊製。會

車駕西巡。駐岐阜。懸之御座。辱蒙宸賞。益精其製。居三年

車駕再巡。懸之多治見行宮。有命盡購之。於是聲價大興。得賞牌於京師於浪華於寧樂。夫一燈之微。於天下事。似無輕重者。不知。紀綱張弛。係人民之安業與否。是以巧藝之優劣。足以卜國家之盛衰矣。余頃遊南都。觀東大寺所藏古器。其堅緻巧麗雕刻精微。皆王室盛時物也。後至京師。得足利氏末所製什器。率皆麤惡。無足觀者。嗚乎是可以鑒矣。頃又來岐阜。佐矩贈以一燈及始末一篇。余喜其用心之勤。施工之精。謂足以燈聖代也。顧余書燈照讀。三十餘年。光彩文章。旭於此燈多矣。聊述來由。以待後之明者。

從六位依田百川撰

發賣廣告

明治十九年五月

內務省衛生局御編纂

日本鑛泉誌

上卷（定價金壹圓五拾錢 正價金壹圓廿錢）
中卷（定價金壹圓五拾錢 正價金壹圓廿錢）
下卷（定價金壹圓五拾錢 正價金壹圓廿錢）

○製本体裁ハ敝社ニ於テ發賣スル處ノ內務省御藏版衛生現行法規通金字入美本銅版著色地圖全國府縣切圖十三葉入

要目

○鑛泉ノ意義及其尋常泉トノ區別
○鑛泉分類法
○鑛泉用法 附氣候療法
○全國各鑛泉位置分析表
○鑛泉冷温ノ區別
○鑛泉醫治効用
○鑛泉ノ利用及管理法

右ハ曩ニ獨乙國フランクフルト府萬國鑛泉博覽會ヘ鑛泉圖出品ノ擧アルニ際シ蒐集セラレタル材料ヲ本トシテ收錄サレシ者ニ係リ乃チ衛生局創立以來各鑛泉ノ位置氣候山川風土ノ摸樣及ヒ發見ノ年月等ヲ詳錄シ且ツ技術者ヲシテ其泉質ヲ分析シテ以テ類ヲ分チ醫治効用ノアルトコロヲ顯著ニシ併セテ各種ノ病名浴法等ニ至ルマテ最丁寧緻密ニ調査セラレシ書ニシテ毎巻ニ精査ヲ極メラレタル銅版着色ノ各府縣切圖ニ符號等ヲ附シテ温泉ノ性質及ヒ冷温等ニ至ルマテ一目明晰タラシムル古來未曾有ノ精微妙典ナリ依テ各温泉場旅館ハ固ヨリ各府縣郡區役所病院醫學校等ノ別ナク苟リニモ衛生ヲ重ンスルノ士ハ座右欠クヘカラサル最貴重ノ書也己ニ官報第八百六十三號以下廣告ノ通幸ヒ內務省ヨリ敝社ヘ發賣ノ榮命ヲ蒙ムリ毎巻該局ノ御撿印ヲ受ケ發兌仕候ニ付テハ可相成部數金員共御取纏メ至急御注文アランヿヲ希望ス

內務省衛生局御編纂

衛生現行法規 全

洋裝金字入美本 壹冊定價金壹圓三拾錢 正價特別九拾錢 再版口

右ハ內務省衛生局ニテ自明治元年至十七年十二月衛生規則布告達等一切無漏卅四項ニ分チ類別編纂セラレタル者ナレハ諸官廳郡區役所及戶長役場醫師藥舖等ハ勿論目下惡疫流行ノ際ナレハ衛生上寸時モ欠クヘカラサル最必用ノ良書ナリ

內務省社寺局御編纂

社寺法規

洋裝金字入美本 定價金壹圓貳拾錢 正價金壹圓

右ハ內務省社寺局ニ於テ該局ノ創始ヨリ明治十七年十二月ニ至ルマテ法令布告達等毫モ無遺漏集輯網羅セラレタル書ニシテ神官僧侶諸君ハ固ヨリ苟ニモ二諸務ニ關係ヲ有スル諸官衙郡區役所及戶長役場等ニハ最必要ニシテ几案間ニ欠クヘカラサル寶典ナリ

陸軍中將從三位伯爵山田顯義君題字
陸軍中將從四位子爵鳥尾小彌太君題字
東京府少書記官正七位渡邊孝君序
東京府本所區長從六位竹內節君題字
大江謙吉君編纂

徵兵令集成 完

一名徵兵令手引草

脊革洋裝金字入美本 定價金壹圓三拾錢 正價金壹圓四錢

此書ハ本令發布己來十八年十月ニ至ル迄ノ布告達伺指令事務條例事務取扱手續等各本條ノ間ニ插入列擧シテ漏ス無ケレハ一目ノ下ニ事務條例及ヒ手續ヲ暸然スルヲ得可キ良書ナレハ郡區廳戶長役場等ニハ最必要ノ良書ナリ

敝社儀從來各官廳印刷御用相勤且西洋紙等モ貴需ニ應シ營業罷在候處御愛顧ニ依リ日ニ月ニ繁榮ヲ極メ候ニ付今般更ニ書籍店ヲモ開設仕敝社出版書籍ハ勿論他店出版ノ書籍ト雖モ御入用ノ節ハ不拘多少ニ敝社ヘ御注文被下候ハヽ精々廉價ヲ以テ速ニ御送本可仕候間益御愛顧ノ上陸續御注文アランヿヲ希望仕候

明治十九年

御用印刷發賣所 東京京橋區銀座三丁目十七番地 報行社

明治廿年十一月御届

明治二十二年略暦

大 一 三 五 七 八 十 十二

小 二 四 六 九 十一

四方拜	一月一日
元始祭	一月三日
孝明天皇祭	一月三十日
紀元節	二月十一日
春季皇靈祭	三月廿日
神武天皇祭	四月三日
秋季皇靈祭	九月廿三日
神嘗祭	十月十七日
天長節	十一月三日
新嘗祭	十一月廿三日

日曜表

一月	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
二月	五日 十二日 十九日 廿六日
三月	四日 十一日 十八日 廿五日
四月	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
五月	六日 十三日 二十日 廿七日
六月	三日 十日 十七日 廿四日
七月	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
八月	五日 十二日 十九日 廿六日
九月	二日 九日 十六日 廿三日 三十日
十月	七日 十四日 廿一日 廿八日
十一月	四日 十一日 十八日 廿五日
十二月	二日 九日 十六日 廿三日 三十日

月帯食皆既 一月廿七日

八せん

二月十一日○十二月朔日
四月十一日○三月朔日
六月十日○五月朔日
八月九日○七月二日
十月八日○九月四日
十二月七日○十一月五日

天赦吉日

三月八日○正月廿六日
五月廿三日○四月十三日
十月四日○八月廿九日
十二月十九日○十一月十七日

東京神田錦町一丁目四番地 編輯兼出版人 渡邊祥次郎

吉凶方位表

金神 とらう いぬい の方

春ハうま 夏ハとり 秋ハ井 冬ハにし

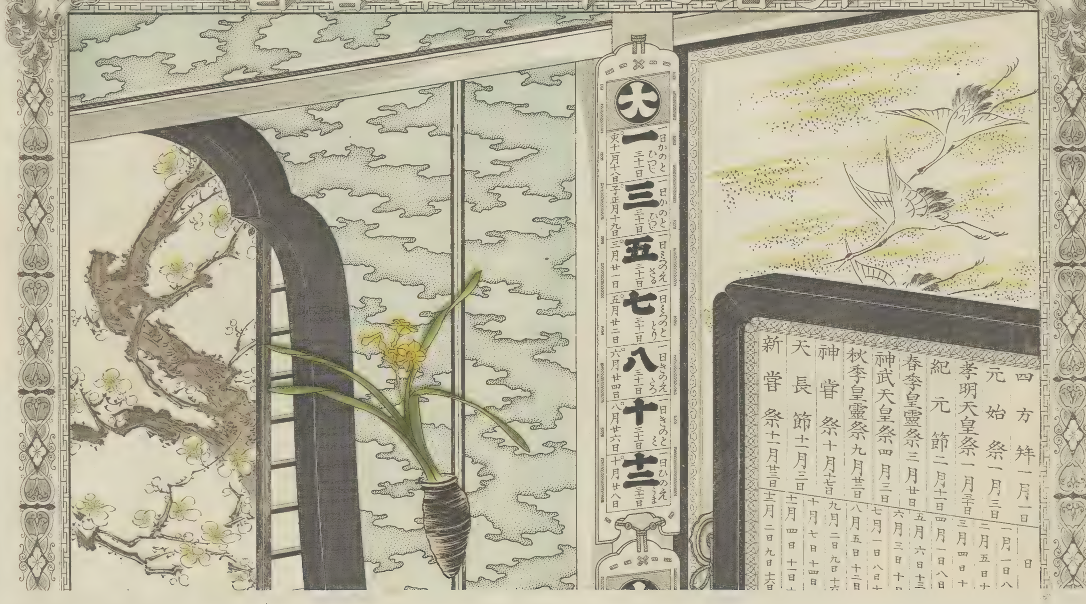
先勝 友引 先負 佛滅 大安 赤口

此表ハすべて旧暦の月日とあるべし

明治九年十月 … 十二月 … 編輯兼出版人 下谷區數寄屋町十五番地 勝木吉勝

明治廿年十一月御届

明治二十一年略暦



明治二十一丁亥年吉凶方位表

歳徳 あきの方 いねの間 万よし

金神 とら いぬい の方

大さい 亥の方この方へむかひて万よし但木をきらず

大しやうぐん 酉の方三年ふさがり このかた万つゝしむべし

大おん 酉の方この方へむかひて さんをせず

さいけう 亥の方この方へむかひて さうじまうず

さいおう 巳の方この方へむかひて そこはせず舟のりはじめず

さいせつ 戌の方この方へむかひて よめとらず

わうばん 未の方この方へむかひて 田をそこめよし

へうび 丑の方この方へむかひて ちくるいをとらず

天赦 天一天上 癸巳の日より 十方暮入き 寅 申 子

春ハかま 夏ハかど 秋ハ井 冬ハにわ

男	相	性	女
吉			凶

男	女
木	女木半吉 女火大吉 女土凶 女金半吉 女水大吉
火	女木半吉 女火凶 女土大吉 女金凶 女水凶
土	女木半吉 女火吉 女土末吉 女金大吉 女水凶
金	女木凶 女火凶 女土吉 女金末吉 女水大吉
水	女木大吉 女火凶 女土凶 女金半吉 女水末吉

さくらよふハ 十の処を一と定め 二十を二と三十を三と かぞふるべし

本命 的殺

九曜星吉凶考

羅睺星	[illegible]
土曜星	[illegible]
水曜星	[illegible]
金曜星	[illegible]
日曜星	[illegible]
火曜星	[illegible]
計都星	[illegible]
月曜星	[illegible]
木曜星	[illegible]

正 七	二 八	三 九	四 十	五 十一	六 十二
先勝	友引	先負	佛滅	大安	赤口

此表ハすべて旧暦の月日と志るべし

明治十九年十月一日御届 十一月 日刻成 編輯兼出版人 下谷區數寄屋町十五番地 勝木吉勝

東京神田南神保町七番地
茗荷屋勘四郎
發賣所

新工夫
擬石綸
東京神田南神保町七番地
篠澤製

專賣特許紙製石盤定價表

○壹号三ツ折鎮鍮縁付　金拾五錢
○貳号大盤二ツ折カ子縁付　金七錢
○三号中盤二ツ折カ子縁付　金六錢
○四号小盤二ツ折懐中用　金二錢五厘
○五号両面大盤カ子縁付　金六錢
○六号同中盤　金三錢
○七号同小盤　金二錢五厘
○八号算盤付鎮鍮縁　金拾錢

右之通定價改正仕候也

抑も此發明品の功用ハ●第一學校兒童の取扱携帶等に輕便なり●第二畵學横文の傳習に簡便なり●第三山間僻地に運搬せんとせは其費石盤の十分の一にして足り且つ破損の患なし●第四詩歌文章証書等の下案に用ゆへし●第五商業多忙の時は金錢出納賣買注文等の備忘に便也●第六勝手向小買物雜用の覺となるへし●第七主人の不在等には來客の傳言其他留守中の事項を記するに便なり●第八從來の塗板に代用する時は湯水を以て拭ふも妨なし●第九數年間用るも磨滅せす數月を經て光澤を生すれは水氣ある布にて拭べし●第十筆墨紙の費を減し又時間を省き經濟上頗る益あり

右之通り至便有益の要具なれは御購求の上御實驗あらんことを祈

明治二十年三月

古川堂
發賣本舗
東京日本橋區大傳馬町二丁目二番地
長塚甚兵衛

神田
柳の舘

東京
山崎屋

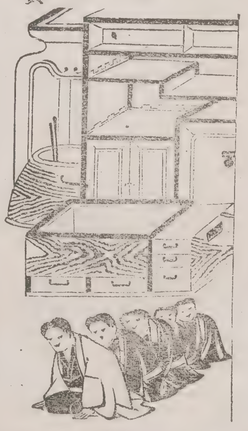
菌蕈食法

一　名稱を知らざれハ食ふへからず
二　性質を知らされハ食ふへからす
三　産地を知らされハ食ふへからす
四　調理を明よせされハ食ふへからす
五　臭氣わるものハ食ふへからす
六　老たる菌蕈ハ食ふへからす
七　螢火を放つものハ食ふへからす
八　風土に慣れされハ食ふへからす
九　季節よあらされハ食ふへからす
十　精神爽快を得されハ食ふへからす

信ハ萬事の本なり

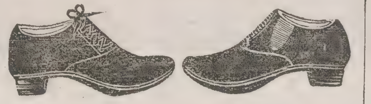
唐木細工指物製造大勉强

日本名木唐木細工
各國靴類數品
革ぶとんまくら品々
大安賣



和木唐木指物一切總て精工無二の勉强幷よ古器物直し繕ひ迄極廉價に引請御爲筋專一よ精工可仕候間何品によらす御用の御方樣ゟ御報知次第即日職工を差上仕様御伺之上實際の直段積り方奉申上候間何卒多少に不限御用向の程伏て希上候

信用ハ資本なり



幷に靴類各種
製造大販賣
專賣特許靴下駄
其他輕便ヅーク靴ラシヤ靴　大人物三拾錢ヨリ　小供物拾五錢ヨリ
靴附屬品數種

唐木細工
各靴類製造販賣所
東京日本橋區瀬戸物町廿三番地
石關庄兵衛

時間ハ金なり

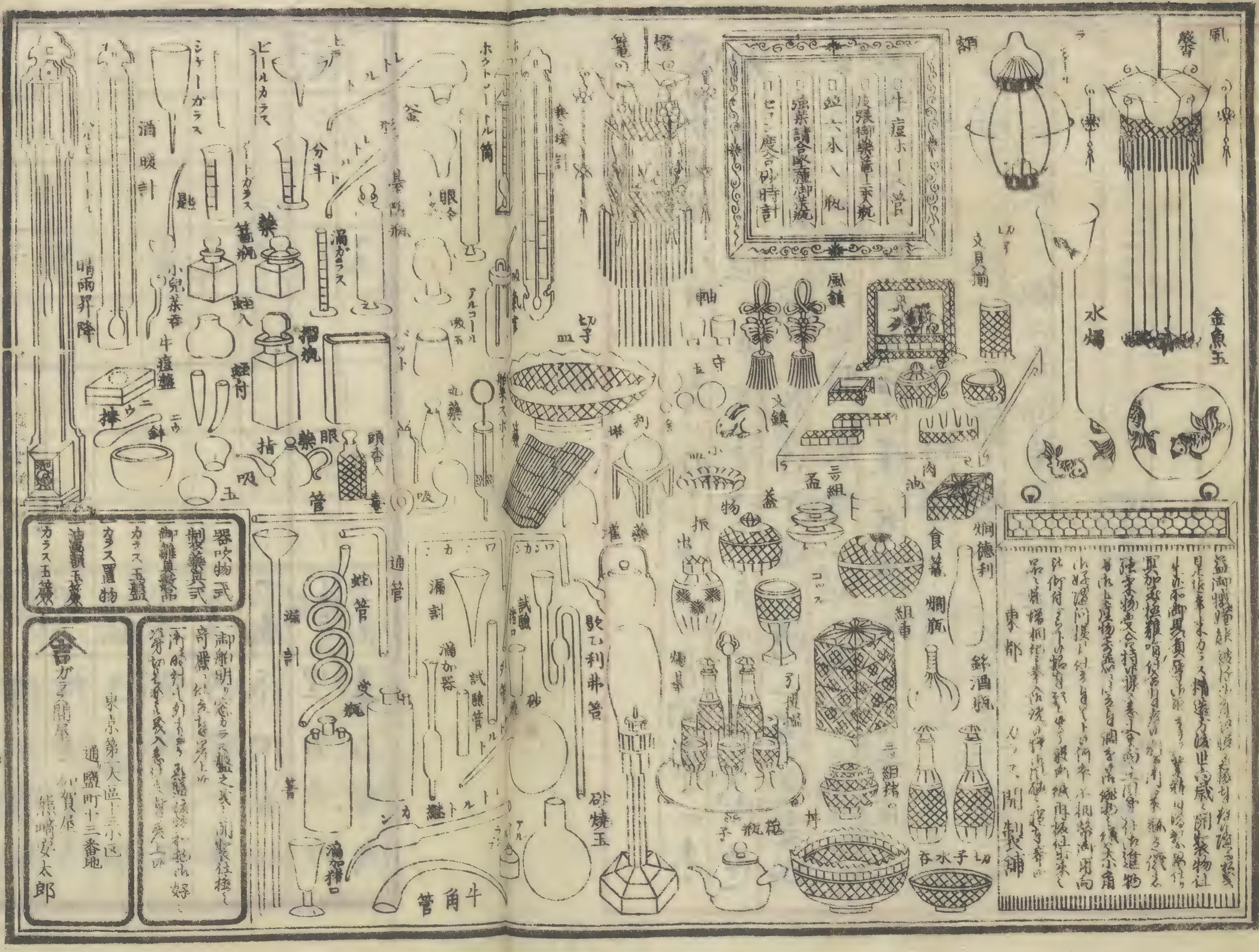
勉强ハ幸福の母なり

致極上

新貴揃能代品川髪

一銭六厘

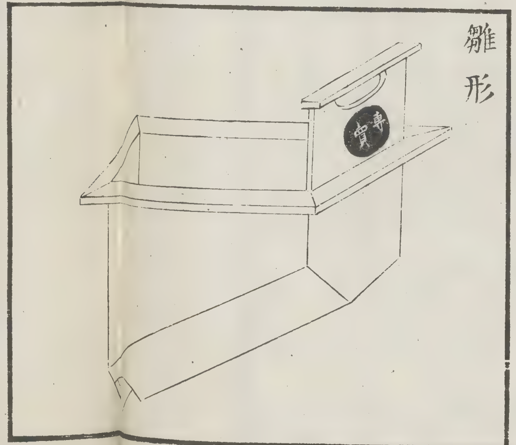
四十



農商務省專賣特許

一改良樋箱 俗ニ云ふきんかくし 厠へ附屬せるもの之

該品ハ衛生上ニ專ら便益あるを以て今回農商務省より專賣特許を蒙り向十五ヶ年之間製造販賣仕候江湖之諸彦御購求あらん事を乞ふ



○改良樋箱功點

一流行傳染病ありと雖他へ臭氣を泄すことなく且つ厠え入りて汚穢物を見せず

一炎暑及ひ梅雨の候目下ニ蛆虫の醜状を見ず

一男女重病と雖とも惡臭或ハ惡風を受けず

一婦人孃妊の節嚴寒暴風と雖とも裾風等を引くことなし

一十歳未滿の小童過ちて穴陷せるも身体を傷ふに至らず

一該品を据付置くときハ竊盗の難を防ぎ且つ小児等深夜ニ至り用便なすことありとも大害あることなし

前陳の如く功點あり○公私小學校○割烹店○劇場○仝茶屋○寄席○等ニ於てハ最も適當の良器とれ

製造販賣人
髙橋松之助
東京横山町三丁目七番地

方今物品製造中ニ有之賣捌所等の設け無之依而該品賣捌
ホされたき諸君ハ郵書をもつて下名ヘ御通知被下度候

明治十年賜鳳紋賞牌　明治十四年賜有功賞牌

大一 諸國茶問屋

本家中村甚兵衛
東京うねめ町拾番地
大豊軒 山城園

御薄茶價

壹斤ニ付

上別儀昔	八拾三錢三厘
南昔	壹圓
白昔	壹圓拾六錢六厘
翠昔	壹圓卅三錢三厘
百年初	壹圓五拾錢
鶴代昔	壹圓六拾七錢
老松	貳圓

御薄茶

毎日挽立申候

御濃茶

御望ヾ應じ掛目五匁ゟ挽立可申候

御濃茶價

半一袋掛目拾匁ニ付

蓬が白	拾六錢六厘
家の初白	貳拾錢
一文字	貳拾五錢
初昔	貳拾五錢
祝の白	三拾壹錢貳厘

御煎茶價

壹斤ニ付

大福	三拾三錢三厘
魁	三拾七錢五厘
初音ヶ壽	四拾壹錢六厘
老樂	五拾錢
獅子飛	五拾八錢三厘
二葉揃	六拾六錢六厘
初摘ヶ祝	八拾三錢三厘

濃茶園玉露製 御煎茶價

壹斤ニ付

蘭乃友	壹圓
碧園	壹圓貳拾五錢
生玉露	壹圓五拾錢
松籟	壹圓六拾七錢
集鶴	貳圓
皇龍	貳圓五拾錢
翠茗	三圓
金蘂	四圓
玉乳	五圓
祥雲	七圓

御煎茶價

壹斤ニ付

上川柳	五錢
宇治里	六錢六厘
末廣	八錢三厘
山城園	拾錢
旭山	拾三錢三厘
正喜撰	拾六錢六厘
黄金花	貳拾五錢
江戸紫	五拾錢
芳洲	六拾錢

御徳用向粉茶價

壹斤ニ付

上喜撰粉	八錢三厘
霜粉	拾錢
花粉	拾貳錢五厘
大福粉	拾六錢六厘
老樂粉	貳拾五錢
二葉粉	三拾三錢三厘
玉露粉	八拾錢
濃茶園玉露出玉 龍團	壹圓貳拾五錢

御進物御茶切手壺詰折詰西京開化堂製錻葉詰桐函詰袋詰等品々御望次第念入其外御薄茶御煎茶道具類精々下直ニ奉差上候以上

名茶之儀ハ宇治表ゟおゐて池の尾木幡五ヶ庄湯谷の邊其土地之茶園を相撰み御風味香氣出色等宜敷様工夫とこらし葉形大葉之儘呑專一ホ精製仕自園手製の名茶再三相試み追々賣弘申候間多少共不相替御用向被仰付被下置候様偏ゟ奉願上候以上

明治十四年十月改正

京橋區　采女町　山城園

○府下之儀者郵便端書ヲ以テ御注文被下候ハヾ多少ニ限ラズ迅速御屆申上候

精良紅茶定價表

彩花白毫	壹斤ニ付	金壹圓
上白毛	仝	金八十錢
白毛	仝	金五十錢
小種	仝	金四十錢
工大	仝	金三十錢

大日本帝國茶問屋山城園本舗

東京采女町拾番地

中村喆兵衛

[illegible]

茶賣出し

弊店本月十日を以開業致し專ら宇治純良乃製茶を販賣を就てハ三日間粗景差上度且百八目樣毎に浴衣地一反呈上仕候間大方れ諸君愛顧を垂れ多少に拘らす續々御購求あらんことを伏て希望を

明治十九年七月

下谷守田寶丹本家前

●●●樂園 謹白

開店廣告

世間諸君益御清適恐悦至極に奉存候隨而私義今般御當所にゐて左之品々發賣仕候間何卒開店當日より多少に不拘御購求之程偏に奉願候、上

一 ランプ

一 銘酒類

五月十五日 十六日 開店

當日麁景差上申候

本鄉區 湯嶋切通シ坂町四十四番地

松原安次郎

西洋料理 開業廣告

各位益〻御優勝奉恐賀候隨而弊舖儀何レモ諸君之御引立ヲ蒙リ日ニ増盛大ニ立至リ難有奉謝候就テハ今回西洋室立喰場新築致シ左之通リ以廉價ヲ洋喰調理仕候間何卒舊ニ倍シ該賣出シ當日ヨリ陸續御愛顧御用向之程一偏ニ奉懇願候猶御懇意様方ヱモ宜敷御風聽被仰合御來車之程奉希上候猶出前仕出シ等是亦別而注意致シ調進可仕候也

西洋御料理	上喰	御壹名十品	金五拾錢
仝	中喰	御壹名八品	金四拾錢
仝	並喰	御壹名七品	金三拾錢

此他御好ニ應シ調進可仕候也

九月三日四日 當日麁景呈上仕候

西洋御料理 湯嶋切通シ坂上 江知勝

口上

各〻様益〻御機嫌克御揃遊され恐悦至極ニ奉存候
随而手前義年来足袋職仕来り候處
明治十年上野博覧会江出品致し初
めて新工夫仕候へバ

一シャツ腹掛 むねをひやさぬ掛てよろしく
一縞絆連股引 名高養生さるまた 諸君方の中着ニ極よろしく
一シャツ連股引 御子供衆のねまきに至極よろしく
右品一統ニ御求メ希フ外ニ好ミ注文仕ル

月 日

芝口弐丁目八番地 大のや金兵衛

専賣特許
火災保險

大倉製金庫價格表

特許壹號 兩開キ保險付
外寸法車除キ
高サ 五尺壹寸余
間口 三尺七寸余
奥行 三尺
厚サ 五寸五分
目方 凡六百五拾貫目
正價 金四百五拾圓

特許二號 兩開キ保險付
外寸法車除キ
高サ 四尺壹寸余
間口 三尺壹寸余
奥行 二尺七寸余
厚サ 五寸
目方 凡四百五拾貫目
正價 金三百圓

特許三號 兩開キ保險付
外寸法車除キ
高サ 三尺六寸余
間口 二尺八寸余
奥行 二尺五寸余
厚サ 五寸
目方 凡三百三拾貫目
正價 金二百五拾圓

特許四號 兩開キ保險付
外寸法車除キ
高サ 三尺二寸
間口 二尺[illegible]
奥行 二尺二寸
厚サ 四寸五分
目方 二百五十貫目
正價 金二百圓

特許五號 兩開キ保險付
外寸法車除キ
高サ 二尺八寸余
間口 二尺四寸余
奥行 二尺
厚サ 四寸
目方 凡二百貫目
正價 金百五拾圓

特許五號 片開キ保險付
外寸法車除キ
高サ 三尺二寸余
間口 二尺三寸余
奥行 二尺二寸
厚サ 四寸
目方 凡二百廿貫目
正價 百三拾圓

特許六號 片開キ保險付
外寸法車除キ
高サ 三尺一寸余
間口 二尺一寸余
奥行 一尺九寸
厚サ 三寸七分
目方 凡百六拾貫
正價 金百拾圓

特許七號 片開キ保險付
外寸法車除キ
高サ 二尺六寸余
間口 一尺九寸余
奥行 一尺八寸
厚サ 三寸五分
目方 凡百拾貫目
正價 金八拾五圓

特許八號 片開キ火災請合
外寸法車除キ
高サ 二尺四寸餘
間口 一尺七寸餘
奥行 一尺六寸
厚サ 三寸
目方 凡八拾貫目
正價 金五拾八圓

特許九號 片開キ火災請合
外寸法車除キ
高サ 二尺一寸余
間口 一尺六寸余
奥行 一尺五寸
厚サ 三寸
目方 凡六十貫目
正價 金四拾八圓

火災保險改正金庫格價表

改正壹號 兩開保險付車付
外寸法車除キ
高サ 五尺余
間口 三尺六寸余
奥行 二尺九寸余
厚サ 五寸五分
目方 凡六百貫目
文字合器械錠付並中戸前付
價 金四百圓

改正二號 兩開保險付車付
外寸法車除キ
高サ 四尺五寸余
間口 三尺三寸余
奥行 二尺七寸余
厚サ 五寸五分
目方 凡五百貫目
文字合器械錠付並中戸前付
價 金三百五拾圓

改正三號 兩開保險付車付
外寸法車除キ
高サ 四尺壹寸
間口 三尺余
奥行 二尺六寸余
厚サ 五寸
目方 凡四百貫目
文字合器械錠付並中戸前付
價 金貳百七拾圓

改正四號 兩開保險付車付
外寸法車除キ
高サ 三尺六寸余
間口 二尺七寸余
奥行 二尺四寸余
厚サ 五寸
目方 凡三百貫目
文字合器械錠付並中戸前付
價 金貳百廿五圓

改正五號 兩開保險付車付
外寸法車除キ
高サ三尺一寸 間口二尺二寸余
奥行二尺 厚サ四寸
目方凡二百貫目
文字合器械錠付價金百卅五圓
同中戸前付 高サ三尺一寸
間口二尺三寸五分奥行二尺餘
其他前同斷 價金百五拾圓

改正六號 片開保險付車付
外寸法車除キ
高サ三尺 間口二尺
奥行一尺八寸 厚サ三寸七分
目方凡百五十貫目
文字合器械錠付車付 價金九拾圓
文字合器械錠付車無 價金九拾圓
全無之分 價金八拾圓

改正七號 片開保險付車無
外寸法
高サ 二尺五寸
間口 一尺九寸
奥行 一尺七寸
厚サ 三寸五分
目方 凡百貫目
文字合器械錠付 價金七拾圓
全無之分 價金六拾圓

改正八號 片開キ火災請合
外寸法
高サ 二尺三寸
間口 一尺六寸
奥行 一尺五寸
厚サ 二寸七分
目方 凡七十貫目
文字合器械錠付 價四拾八圓
全無之分 價四拾壹圓

改正九號 片開キ火災請合
外寸法
高サ 二尺
間口 一尺五寸
奥行 一尺四寸
厚サ 二寸五分
目方 凡五十貫目
文字合器械錠付 價金四拾圓
全無之分 價金卅三圓

改正十號 片開キ
外寸法
高サ 一尺五寸
間口 一尺二寸五分
奥行 一尺二寸
厚サ 二寸五分
目方 凡三十貫目
價 金貳拾二圓

特別製造號外價格表

號外八號 片開キ火災請合
外寸法
高サ 二尺二寸
間口 一尺六寸五分
奥行 一尺五寸
厚サ 二寸五分
目方 凡六十五貫目
文字合器械錠付 金三拾八圓
全無之分 金三拾三圓

號外九號 片開キ火災請合
外寸法
高サ 二尺
間口 壹尺四寸五分
奥行 一尺四寸
厚サ 二寸五分
目方 凡四十五貫目
文字合器械錠付 金三拾壹圓
全無之分 金貳拾七圓

右圖面幷ニ詳細書ハ御報次第速ニ進呈ス

發明者
販賣店 東京日本橋區大傳馬町貳丁目 大倉製金庫 萩原彌吉
製造人 神田區東紺屋町寄留 神奈川縣平民 竹内善次郎

官許

滋養のつかさ

鰹節越幾斯

壹瓶ノ價金貳拾錢ヨリ金壹圓五拾錢迄トス
但原料相場ニ由リ價ニ多少ノ高低アリ
御賞味アランヿヲ

鰹節の滋力を補益する功あるは往昔より人の知る所なり然れども他国に此を用ひて製造せる品は唯獨りあるを聞かず有るのみ余曩ニ牛肉羹を發明して世の賞味を博したりしが今また鰹節「エキス」を創製し衛生局東京試驗所の定量分析を請ひ其害なき旨を保證せしに分量滋養分を含める滋養品たるに至る迄善く「リービッヒ」氏の牛肉越幾斯に類似し充分に牛肉「エキス」の代用品たるを證明せられたり是に於て猶ほ々鰹節の貴重なるを信し更に細に調製し官許を得て發賣す抑も鰹節は吾國固有の滋養質を有する日用片時も欠くべからざる食品なりといへども其從前は僅に切削り煮出し汁を用ひて滋味を去るの弊あり此「エキス」を用ふれば曾て此等の煩なく魚肉鳥肉蔬菜類を煮るは素より煮汁の醬油調酒の汁に和すれば風味を増し客を待たせぬ等料理に主人の心遣の意満に應ずる便利あり其價も廉價にていつ迄持へ置とも腐敗するの憂なく殊に世界に有名なる牛肉越幾斯の代用として「ソップ」となして飲用すれば貴に腎臟の補益をなし病患を治療するに效あるべく衛生上も經濟上もならびに無比の良品あり且つ近來肉食の大ひに流行するや内國の牛豚類は之を売くもの忽ちなしとせざるも此「エキス」は無量の滋養ある鰹節より製し牛肉「ソップ」に代用するを以て自ら内國の資産を増し隨つて鰹節の名聲を世に盛んにするに至るべし因て官許を得て發賣せる牛肉羹と併せて販賣す愛顧の諸君陸續に倍して購求あらせられん事を希ふ

東京下谷區上車坂町四十八番地

發明製造販賣本舗　鮮興堂安達商三謹誌

用法

一 鰹節「エキス」は牛肉「エキス」と同様貯蓄するに腐敗なること無く尤も其他の食物の滋養分と又滋力とを導きて食膳に配布するゆへ飲用は勿論日用飲料に少時も欠くべからざる貴重無比の良品なり日用飲物に用ゆるには鰹節湯目盛分の代りに此「エキス」一匁を用ふべし煎汁茶の醬油にまぜるには「エキス」一匁を醬油一合をあたゝめて混和すべし一匁を「エキス」の量とし[illegible]國味の調和を要するは尚主其人の好に任す

一 飲用醫用「ソップ」(肉をたゝき湯煮にして煮出す「ソップ」)とするには「エキス」に湯一勺を六勺(凡一合となし)の湯にとかすべし然るときは[illegible]を含むものとす

一 牛乳或は珈琲コーヒー等に混和して尚上の滋養飲料となるべし[illegible]して飲用すべし此外調理の便宜に應じ用ひて可なるべし

附言 [illegible]

[illegible]

鰹節越幾斯分析告示書

東京下谷區上車坂町四拾八番地

願人　安達商三

一第二百九拾九號　鰹節越幾斯　壹瓶

本品ハ暗褐色ノ稠糊越幾斯ニシテ臭味共ニ佳良ナリ水ニ殆ンド全溶シ唯僅ニ微濁ヲ呈スルノミ又本品ニ就キテ分析ヲ施行シ其各成分ヲ檢定セシニ本品百分中ニ含有スル所左ニ列記スルガ如シ

水	二三、一六一
有機物全量	六一、四〇三
無機物全量(灰分)	一五、四三六
酒精中(九十%)可溶分	三七、四一四
同不可溶分	二三、九八九
脂肪	〇、二二七
窒素全量	六、六五五
單寧酸ニ由テ沈澱セル物質中ノ窒素	一、七六二

右定量分析ノ成績ニ本品中ニ含有セル窒素含有物ニ就キテ更ニ定量分析ヲ施行セシニ其一部分ハ魚膠質ヨリ成リ他ノ一部分ハ「クレアチン」「クレアチニン」等ノ肉越幾斯ナルヿヲ檢定セリ因テ考フルニ此鰹節越幾斯ナルモノハ分量[illegible]ヲ除外トシテ其構造成分ニ至ル迄着シク「リービッヒ」氏牛肉越幾斯ニ類似シ充分ニ牛肉越幾斯ノ代用品タルヲ得ルベキモノト信ズ

衛生局東京試驗所長心得
内務一等技手　田原良純　印

檢査主任
内務七等技手　喜多見元策　印

明治十九年十一月

鰹節砂糖大安賣廣告

一今般鰹節砂糖上等品ノミ相撰ミ大安賣仕候ニ付**開店**當日ヨリ多少共御用向之程伏テ奉願上候

但シ鰹節**切手**之義ハ御進物先御都合ノ爲メ聊少手數料頂戴之上ニテ**代金引換**奉差上候尤何時成共十圓以上切手之分ハ銀行手形ヲ以御渡シ申上候事モ御座候ニ付此段御承知置奉願上候也

來ル十六日 十七日 十八日 **鬮引大景物呈上仕候**

明治十九年十二月

日本橋區富澤町通リ久松町十六番地

井桁屋

日本橋區本銀町二丁目十番地進々堂印行

皇國西洋 入齒埋齒

むしば治療　即効(すぐになおる)

埋齒定價

ゴム埋ハ　金拾五錢ゟ

銀埋ハ　金三拾五錢 上等六拾錢ゟ

金埋ハ　金壹圓五十錢ゟ

皇國入齒定價

男惣入齒　上下ニテ　金貳圓ゟ

同　壹枚ニ付　金拾五錢ゟ

女惣入齒　上下ニテ　金壹圓貳拾錢ゟ

同　壹枚ニ付　金八錢ゟ

西洋入齒定價

男惣入齒　上下ニテ　金拾貳圓ゟ

同　壹枚ニ付　金壹圓ゟ

右之如ク廉價ヲ旨トシ精々念入ニ致候シ間四方ノ諸君御光來ヲ希フ

月　日

池ノ端仲町通三丁目三番地

齒醫　宮澤勝三郎

明治二十年定期會出品課題

一月	哺乳類	金屬礦
二月	禽鳥類	非金屬礦
三月	爬行類	金屬礦
四月	水陸類	非金屬礦
五月	鱗鰭類	金屬礦
六月	甲殼類	非金屬礦
七月	蜘蛛類	金屬礦
八月	昆蟲類	非金屬礦
九月	環蟲類	金屬礦
十月	軟體類	非金屬礦
十一月	芒刺類	金屬礦
十二月	珊瑚類	非金屬礦

松柏科　橙橘科　海藻科　寄生科　薔薇科　石果科　石南科　十字科　鳶尾科　蘋繁縷科　毛莨科　蘭科　繖形科　百合科　唇形科　葡萄科　禾本科　莎草科　菊科　荳科　菌茸科　蓼科　苔蘚科　羊齒科

右課題ノ物品同好ノ諸君左ノ所エ御出品アランヿヲ冀フ

毎月第一土曜日午后第一時ヨリ愛知縣博物館(名古屋門前町)ニ集會ス

毎月第三土曜日午后第一時ヨリ愛知縣植物園(名古屋西二葉町)ニ集會ス

明治十九年十二月　愛知縣下名古屋區　嘗百社

改良樋箱据付方及注意

一改良樋箱据付ノ方ハ先ツ在來ノ樋箱ヲ取拂ヒ後チ穴ノ縦横寸尺ト此樋箱ノ寸尺トヲ度リ(穴ノ幅大ナルトキハ割木ヲ以テ之チ埋メ○前後大ナルトキハ後部エ割木チ打付ケ○小ナルトキハホドヨク之ヲ切リ除ク)以テ該樋箱ヲ据付ベシ

一該樋箱ニ三ケ所ノ捻釘アリ据付タル以上ハコノ捻ヲ廻シテ堅ク止メ置クベシ時トシテ右捻釘ヲ抜キ取リ掃除スヘシ

注意

一小便トモ後穴エ落チ下ルヿ速カナリト雖モ時トシテ汚穢紙ノ滞ルヿアリコレハ毎ニ朝カ夕方掃除ノトキ水五合程ヲ注キテ下ルベシ

明治十八年十二月　東京府平民　發明人　高橋松之助　日本橋區横山町三丁目七番地

一上等製　一箇定價　金壹圓五十錢

總檜六分上リ内部總「トタン」「ペンキ」塗リ前板並ニ四方ワクフチ漆本塗リ外面「ペンキ」塗リ捻棒付

一中等製　一箇定價　金壹圓

前並ワクフチ檜黒ウルシ塗底「トタン」外面「ペンキ」塗リ捻棒付

一並製　一箇定價　金五十錢

總杉板底「トタン」「ペンキ」塗リ外面上等生澁塗リ捻棒ナシ

久松町清泉舍印行

豊島牛舎

代舌

今般東京南豊島郡東大久保村廿三番地空氣純精飲水清淨ナル場所ニ於テ精良ノ乳牛ヲ引入レ豊島牛舎ノ名稱ヲ以テ愛顧諸君ノ御滋養ヲ旨トシ來ル　月　日ヨリ牛乳ヲ賣出シ候間多少ニ不限御用向相願候就テハ郵便端書ニテ同所エ宛日々御用ヒノ量御通知被下候得ハ御禮トシテ初配達ニ限リ壹合迄ハ御試ノ爲メ無代價ニテ進呈シ其節端書ハ引換御返上可致候間夫レカラ夫レエ御吹聽御愛顧之程偏ニ奉希候也

明治廿年　月　日

東京南豊島郡東大久保村廿三番地戸山學校脇　**豊島牛舎**

牛乳代價附

五勺	壹錢五厘
一合	貳錢八厘
二合以上	壹合ニ付貳錢五厘

印刷有隣堂活版所

かろしてもて小賣でも昆布一際相場はつれぞれちやくに割引度大勉強大安賣仕升ゥらどんへ—ゐらしやい

無類新製昆布菓子 發賣品廣告

一 昆布製御菓子 **蝦夷の雪**

右品今般新製仕價を安く風味宜く極良品ニ候へバ御試驗の上續々御注文之程奉希候

一 昆布製御菓子 **祇園坊**

此昆布製祇園坊ハ常の干柿の香味ニ代るとなし

一 新製珍味 **昆布砂糖漬** 各種

滋養品細工昆布

一 即席吸物 **四季花折詰昆布**

便利吸物折詰にハ山水花鳥を詰分て極美しく入念ニ仕立て稠進仕候

一 別製滋養品 **茶昆布**

鑵詰瓶詰紙入御好次第

抑昆布之儀ハ數日御貯へ相成候ても決して腐敗する患なく滋養品之一部分に位する者なきぞ是中之御進物にも最上等なり依て此度蝦夷の雪を新製仕極安價にて御進物折詰紙入等御披露爲大勉強大安賣仕候(折詰五錢ゟ)尤新製の中にても祇園坊の儀ハ最評判宜敷陸續御注文有之難有不堪感謝ニ候

蝦夷の雪○茶昆布の如きも薄雪砂糖漬祇園坊等同樣被下度御愛顧不限多少に御購求の程伏て奉願候

但し府内の分ハ郵便にて御注文被下候ハヾ直樣持參仕候

廣告當日ゟ賣初め升

萬昆布製造處　東京本郷區本郷貳丁目廿一番地　大横町入口

若橋屋菊治郎

附言

一 松前本場 **山出シ昆布** ハ當年ハ何方之昆布屋にても切物ニ相成候處拙方にてハ此度大坂表ゟ澤山上等物仕入候間御買上被下度願升

官許
寒瘡ちぐし薬
家傳即功散黒焼
壱包代三銭
本舗 東京下谷區南稲荷町廿八番地 白井壽万

大醫淺田先生經驗
讃岐國高松天神前

官許 赤龍散 製藥所 瀧

一帖入六錢五厘 三帖入十八錢 五帖入三十錢

功能略記

此製劑能ク身ノ血脉ヲ通ジ膿血ヲ排シ元氣ヲ補ヒ腸胃中ノ冷氣ヲ去リ中ヲ調ヘ津液ヲ滋スヲ以テ主トス

一吐瀉病（食傷 霍乱）ノ如キハ緩劇ヲ不論服用スルモノ直ニ効驗アリ
一小兒馬脾風　一小兒吐乳
一風引或ハ内熱滞ル症　一瘧
一痛風　一留飲 癪氣
一半身不遂（一名中風ト云フ）　一癲癇
一脚氣（腫 痹 瘀）　一噦噎
一經閉　一痳疾
一癰疽疔毒重症ト雖モ服用スレバ直ニ疼痛和セシメ治シテ瘢痕不止其他腫物類
乳癰○瘰癧○咽腫○腸癰○歯痛腫○小兒白瘡ニテ痛腫○大小兒耳濕ニテ痛腫○疥癬或ハみつむし○よがむしニテ瘡トナルニ吉
一諸中毒最魚酔タルニ即効アリ
但製劑平常服用シテ有益無害且多ク歳有經ルトモ効能無變
此他用方禁物等本能書にくわしく記有之候

茲ニ先年來各地方ニ於テ吐瀉病ノ流行スルヤ世人大ニ信用ヲ博シ爲ニ該需用夥シク其他前顯ノ病症ニ用ヒテ偉効アリ故ニ豫メ之レヲ用意スレバ發病ニ際シ直ニ服用ナス時キハ名アル病症ニ至ラズシテ治スル事實ニ神奇ト云ツベシ於之其特功アル事ヲ世ニ波及シ醫家ニ乏シキ地方日旅行或ハ深夜等ノ御用意ニ供シテ大患ヲ免レシメン事ヲ希望ニ堪ヘズ是ヲ以テ此度販店ニ放テ賣弘メ爲ソトス依テ特ニ

大阪賣所 茶商 三吉園 杉浦善助

官許 家傳即功散黒焼
寒瘡散薬

一 世にしもやけの妙薬数多あるとも即功……ぬ来し一人として不治者なく……季節おしまず以実に難得高價……同様に薬剤の実價を以廣く販売……若能虫く通り……奥深しの尚日々二日乙円に付……入来おもて右薬代添上や亦八お……代料そて附て差と申る然而疑念而求めこの者下也
但代料而返しの筈は能出而相示のとふ此而相求め……

一 ふくれ上りつゆく痛位ハよく練りて散し翌朝と取り去るなし
但年くに足添ぬ……のがく甲てても……用ひざれば治し……
……張り付るかし ……
……始め……二三日而も其後……一面に……

明治十八年七月

一 其人の病により血らくみ極まつ沢山吸出るなるべし 二三時る程少く痛むあるべし 全く
血うみを吸出ん為に付極よし
極く毒深きハ二三回夜も張り替へ血を取るべし
練り方ハ痛不の跡もれより一面につけ張るべし
より方お手そく痛むてもあるべし
以薬ハ湿気なく仍爪を取扱ふ志なく付屢無し 張り付肉の程へ手を入ぬ様に付べし

一 練り方ハ飯粒二十又ハ粒三十粒位迄白湯にて紙に能く位に能くねり手肉へ出て包を小粉入れ
能ねし 尺方寸と弐寸の紙に付しても能く痛不の大小に随ひ切りて附べし
一 田虫所の当てつ全ぜん治てこのゆく痛む種〻の右壺瘡同様一付と取りて可
一 赤切れハ切れたる口へ練り込べし 付て治す奇妙や
但口中へ入るを禁ず

本舗調製所
東京下谷區南稲荷町廿八番地
白井壽万

官許 寒瘡ちどし薬

家傳即功散黒焼

[illegible]代三銭

東京下谷區南稲荷町廿八番地

本舗 白井壽万

大醫淺田先生經驗

官許 赤龍散（しやくりゆふさん） 製藥所

讃岐國高松天神前 瀧

一帖入六錢五厘 三帖入十八錢 五帖入三十錢

此製劑能人身ノ血脉ヲ通ジ膿血ヲ排シ元氣ヲ補ヒ腸胃中ノ冷氣ヲ去リ中ヂ調ヘ津液ヲ滋スヲ以テ主トス

功能略記

一吐瀉病（食傷 霍乱）ノ如キハ緩劇ヲ不論服用スルモノ直ニ効驗アリ

一小兒馬脾風　一小兒吐乳

一風引或ハ内熱滯ル症　一癰　一留飲　癪氣

一痛風　一癲癇

一半身不遂（一名中風ト云フ）　一噎膈

一脚氣（腫氣 痲痺）

一經閉　一癇疾

一癰疽疔毒重症ト雖ヒ服用スレバ直ニ疼痛和セレメ治シテ瘢痕不止其他腫物類

乳癌○瘰疽○咽腫○腸癰○齒痛腫○小兒白昔ニテ痛腫○大小兒耳漏ニテ痛腫○疥癬或ハみつむし○よがむしニテ瘡トナルニ吉

一諸中毒最魚酔タルニ即効アリ

但製劑平常服用シテ有益無害且多ク歳有經ルトモ効能無變

此他用方禁物等本能書にくわしく記有之候

官許 家傳即功散黒焼

寒瘡散薬

功能書

定價金三錢

一世にもやけの妙薬数多あるといへ共即功有をきかず我即功散付薬ハ祖先以来より本年春迄数十年施来し[illegible]一人として不治者なく寄代の良薬也[illegible]薬ホ一つとして薬店に出し且取り入るべき季節[illegible]を以て[illegible]難得高價に当り廣く施けよし[illegible]依而本年七月[illegible]官許を蒙り薬同[illegible]ニ薬ホの実價を以て廣く販賣せんと[illegible]遠方[illegible]ハ[illegible]付候間[illegible]自身藥店へ御入来[illegible]薬代[illegible]

一但代料御返しの[illegible]

明治十八年七月

一ふくれ上りこのゆく痛位ハよく練りて散し置[illegible]

一[illegible]

一其人の[illegible]より血[illegible]

一血[illegible]を吸[illegible]

一練り方ハ[illegible]

一[illegible]

一此薬ハ油氣なく[illegible]

但口中へ入るを禁ず

一練り方ハ飯粒二十五六粒ニ三十粒位迄白湯にて紙に[illegible]

一[illegible]

一田虫[illegible]

一赤切れハ切れたる口へ練り込べし[illegible]治す奇妙也

本舗調製所

東京下谷區南稲荷町廿八番地

白井壽万

廣告

爰ニ日用ノ物品ヲ其産地ヨリ直輸シ精々廉價販賣ノ道ヲ擴張致度見込差向左ノ物品發賣仕候此段廣告候也

薪炭
○堅木 ○松材 ○土釜炭 ○佐久良炭

醤油

此外數品
但枡賣ハ不仕

一醤油御用ノ節ハ葉書郵便御遣被下度何方ニテモ御注文次第御届ケ御間ニ合セ可申
一東京府内ハ遠近ニ係ラス持込賃錢不申受候
一澤山御用ノ向ヘハ通價ヨリ割引可仕候

明治十九年十月　日

牛込區牛込揚場町八番地
有方舍　大橋精次
（有方舍主）

繪畫展観會

不論晴雨
不要席費

本月廿八日（從午十二時至后六時）同廿九日（從前九時至后四時）上野松源樓ニ於テ關東四大家（谷文晁 渡邊華山 高久靄崖 椿椿山）ノ畫併テ本朝浮世繪ヲ展観ス冀クハ江湖同嗜ノ雅君遐邇ヲ論セス來臨アランコヲ乞フ

明治二十五年十月

催主 須原畏三
田澤靜雲
若井兼三郎

贊成員
林松谷
鈴木湖村
吉田幸平
渡邊小華
菊池靜軒
由利薫
黑川小樵

補助
松井釣古
野村研雪
阿部柳所
矢澤樵村
遠藤魁春

賣出し廣告

各々樣倍々御機嫌よく被遊御座恐悦至極奉存候隨て弊店儀從來すし營業罷在候處四方の御最負樣のお引立を以て日に増し繁榮に赴き難有奉鳴謝候依て其御禮のしるしの驗として今般總てを改良しおすしの外に左の品々も極新鮮なる魚を撰み注意に注意を加へて調進仕候間何卒舊に彌益し續々御來車被成下度伏て奉冀望候

一すし　御壹人前　金四錢
一ちらし五もく　同　金四錢
一あなご蒲燒　同　金六錢
一あなご丼　同　金六錢
一有合御料理　壹品　金四錢

來ル六月十八日賣出し
當日御景差上ケ候

本郷區元富士町貳番地
三好すし

機那葡萄酒

佛國キーンキイナワーン

此葡萄酒ハ機那及芳香藥ヲ配合シタル故普通ノ葡萄酒ヨリ効力十二倍ニシテ滋養健康ヲ補治シ胃ノ消化ヲ強クナス都テ健胃強壯ノ良酒ナル故江湖ノ諸彥効驗ノ著ルシキハ用ヒテ御試ミアランコヲ希望ス

東 き 京

えぞうしおろし

えんぶんるゐ　あふみるゐ　ゑびきるゐ
さうし類　ちやかへ類　道中記類
くもんいんるゐ　をくらく色紙　手帳類
東京ゑづ　もんづけ類　けいこ本類
日本ちづ　小学本類　手代紙類

賣掛物一切不仕候以上

かやば町四ばん地
三浦屋金三郎

牛乳試驗告示

府下牛込區新小川町
愛生舍々主
願人　安田勳

本品ハ色味臭共ニ異狀ナシ反應ハ弱酸性ニシテ比重ハ設氏貳拾一度半ノ時一、〇三〇ナリ牛乳百分中所含ノ各成分ハ左ノ如シ

水分	八五、七七〇
脂肪	五、八五〇
乾酪素	二、〇一八
蛋白質	〇、三九〇
乳驗	五、三一〇
灰分	〇、六六一

右ノ試驗成積ニ據レハ本品ハ特ニ脂肪ニ富ミタル良好ノ牛乳ナリトス

衛生局東京試驗所
撿明部長
内務一等技手　田原良純
撿査主任
内務七等技手　喜多尾元英

弊舍儀ハ年來新鮮最良ノ乳汁ヲ販賣仕候ニ付醫科大學第一第二兩醫院ヲ始メ廣ク貴顯紳士ノ御需用ヲ辱フシ、ルベルツ先生モ弊舍牛乳ノ善良ナルヲ稱セラレ日々御飲用相成乳質ノ至善至良ナル多言ヲ要セス然レモ尚衛生局東京試驗所ノ試驗表ヲ掲出シ其良品ナルヲ証明致候得ハ四方ノ諸君多少ニ拘ハラス御飲用ノ程偏ニ奉希候也

良乳販賣廣告

壹合　金三錢五厘
五夕　金壹錢八厘

但毎日四合以上御入用ノ向ヘハ一合金貳錢五厘ノ割

但遠方ノ御方様ハ分量幷配達時間御記入被下端書ニテ御申越相成候得ハ必ス時間ヲ違ヘス配達可仕候

牛乳專業

牛込區新小川町三丁目拾四番地
愛生舍

西洋酒開店廣告

一 キカヒビール
一 ドイツシ、印ビール
一 淺田ビール
一 櫻田ビール
一 三ツ星ブランデー
一 武者印ブランデー
一 レン印ブランデー
一 武者印アミカケブドウ酒
一 二本ボウブドウ酒
一 和ビンベルモット
一 ミカン酒
一 白大ビンリキュール
一 ブドウミツ
一 ミカンミツ
一 ミカン水
其外品々

一 ドイツ白ビンビール
一 大ストックビール
一 千歳ビール
一 上等白紙ブランデー
一 ケン印ブランデー
一 青紙ブランデー
一 イタリヤブドウ酒
一 金フサブドウ酒
一 ベルモット
一 トンボ印ベルモット
一 サクラ酒
一 並大ビンリキュール
一 レモンミツ
一 レモン水
一 龜ノ年酒

○わるい品は一切仕入れませぬ○品物はよほど安く賣ります○ひとへに皆様の御ひいきを仰ぐ

右は來ル十日見世びらき　當日麁景呈上

明治二十年五月

神田元佐久間町四番地
日の出屋

日本五業新報

廣告

每月二回（一日。十五日）發刊　定價五錢　全國無遞送料

但前金の外は一切遞送せず○郵便切手を代價として御拂込の向は總て一割増を受け見本として一冊御入用の向は郵便一錢切手五枚にて遞送す○割引は半年分（十二冊）前金五十五錢壹ヶ年分（廿四册）前金壹圓也○代價は現金又は郵便小爲換にて御送附ありたし○本社にては代價受取證は一々差出さず直に新報を遞送致し候にて代價受取の事と御承知ありたし尤も特に受取證を要せらるゝ向は證書遞送料として郵券二錢御送附ありたし○廣告料は一行二十三字詰め一回金五錢十行以上一割引三十行以上二割引にて二回以上掲載の分は行數を合して割引計算す

この日本五業新報は本邦農業。山林。水產。工業。商業の五業に關する學術上實地上現今必要の事項を撰擇纂輯し傍ら海外諸國の五業に關する緊切の事項を撮錄したるものにて其記事を農業。山林。水產。工業。商業の五門に區別し各門復た論說。質疑。雜報。參考の四科を置きて仔細に之を分載し又別に社說の一門を設けて所謂五業の總體に關する事項を論じ特に文章は平易通俗を旨とし專ら讀者諸君に便するを務む故に本新報は即ち日本全國の殖產興業に關する最も必要ある中央報告にして誓て自ら我邦勸業の針盤たらん事を期す苟も職務の此五業の範圍內に在るの諸君は購讀せさるを得さる一大緊切の新報なり

又本社は左の數項の事務を取扱ひ世の有志者の便利を謀るべし

○五業に關する創始事業の會社組合等を設くるに當り其依賴に應じ學術上の調査を爲し又至當の意見を陳述し其諸規則旨趣書等の起草を引受くべし

○專賣特許を請願せんとする共性質區域等の鑑定及び其明細書の起草を引受くべし最も本件の如きは總て秘密を要する者に付決して他に漏洩せざる樣信切丁寧に取扱ふべし

○凡そ和洋製造の農工諸器械賣買の紹介を爲すべし

○五業に關する諸書類の和洋翻譯の求めに應じ又諸印刷物を引受くべし

以上諸項の件に付相當の手數料は申受くべしと雖も別段の謝義を要せず

又本社は五業に關する緊切必要なる新書を編纂飜譯して豫約法を以て漸次刊行發兌すべし即ち第一着豫約書名及び代價は左の如し

桑樹培養法	獨し國パテー氏原著紙數凡百五十ページ圖入 定價三十錢豫約價金拾五錢
日本樹木篇	針葉樹の部紙數凡二百ページ別に寫生精圖凡四十葉入定價金壹圓廿錢豫約價金六十錢
日本淡水魚譜	紙數凡三百ページ圖凡百五十入 定價金壹圓拾錢豫約價金五十五錢
酒類釀造篇	紙數凡二百ページ圖入 定價金五十錢豫約價金貳十五錢

右いづれも三百册の豫約者を得たる後發兌すべし請ふ陸續約束されん事を望む但前金不申受出來の上別段本新報に廣告するを俟て必ず送金あるべし

右は這般大に社務を改革し一層事業擴張の筈に有之故に往々遲延致候新報發刊期日の義も今後は一日も遲延なく發兌し且一層必要の材料を集蒐し必ず良好有益なる事項を報道可仕に付倍舊御贊成御購讀の程奉願候也敬白

明治廿年二月

東京京橋區三十間堀壹丁目七番地

日本五業新報社

各地大賣捌所

東京日本橋區新葭町	良明堂
同神田區淡路町一丁目	巖々堂
同神田區佐柄木町	東海堂
同日本橋區人形町通元大坂町	法木德兵衞
大坂本町四丁目	岡嶋眞七
京都三條通麩屋町東へ入ル秤子交換所	宮井悦之輔
遠州掛川西町	松屋好五郎
甲州甲府常盤町	內藤傳右衞門
信州上田鍛冶町下通靜々堂	重田助次郎
江州彦根西內大工町	新々堂
藝州廣嶋西白鳥町	富國社
但馬國豐岡雷田町	片岡勝治
出雲國宇意郡松江新町五番地盛進堂	藤岡助市
雲州松江本町	園山喜三右衞門
阿州德島中通二丁目	坂井萬吉
薩州鹿兒嶋六日町通中町	富山仲吉
陸前仙台大町	木村文助
北海道函館末廣町	須藤米吉
陸前仙台國分町五丁目	伊勢安右衞門
羽前國米澤立町	素月晨平
大分縣大分町	八凰堂
山形縣北村山郡東根	山本半四郎
岐阜縣羽栗郡笠松本町	加藤仙三郎

辰之口
東京水樂町二丁目
第壹勸工場第貳号舘
錦繪店 福田熊次郎

地本 繪雙紙問屋

諸品ニ手物精々廉價ニ
差上ヶ候間御用向奉願上候

東京人形町通り
長谷川町十九番地
具足屋熊次郎

東京銀坐壱丁目
勸業場 繪双紙店 具足屋

一洋傘類數品	一手袋類數品
一舶來帽子類數品	一シャツ類品々
一和製帽子類數品	一メリ安類品々
一和洋フランネル類	一ステッキ類品々
一襟巻類數品	一靴下類品々

以正眞ノ正札附極々大安賣一厘モ掛引不仕候

弊舗儀各位ノ御愛顧ヲ蒙リ日ニ月ニ繁榮仕難有奉銘謝候然ルニ近來同商ノ競賣甚シク到底尋常之賣捌方ニテハ四方雅客之御需用ニ適セサルモノト奉存候間這回大奮發諸物品ハ極上品ヲ撰ミ價ハ眞ノ正札附ニ致何程御直切ニ相成候共一切直引不仕極メテ大廉價ニ販賣仕候間他ノ店品位價格等御見比ヘノ上實地御試ミ被下度他ノ一時競賣品ノ如キ代價益々下廉ニシテ品物愈々粗惡ナル如キモノト御同視無之樣奉願上候若シ亦品物價格等御高意ニ相叶ハス候節ハ品物御引換ハ勿論代價御返濟等御望ミニ任セ候間陸續御購求被下度此段伏而奉希上候也

東京下谷區池之端仲町通り
廣小路ヨリ右側

藤巻藤衛

鮑殻の饌器

鮑殻を「あやなべ」と称へ鍋に代用せしことは松平樂翁の遺書にも見え今も鍋に用ゐ或は種々乃食器に代へて珍膳に供すれば慶少からず又よく〳〵磨きて杯洗等に用ゐることもあり爰に用ゐるものは客年上總の國小濱ちう沖にて新に發見したる鮑礁より採り得たるものにて此處の鮑は古来海蜑(あま)が到り得ざる深みに棲みて其數限りもなくおほくあれはからさいと大きなり故に之を捕りて利益を得ること少からず一時は世に喧しかりし然(さ)れどもそれまでに永く存へき理あらねば今度その殻を求めいでて後の参考とせんが為めに斯く饌器に用ゐることとなせり

清たふさく

京橋南傳馬町二丁目
文雅堂製

[illegible]

京橋區南傳馬町二丁目 [illegible]

廣告

極上精撰 志乃函 壹升ニ付 金三拾六銭
但し多數御注文の節は割引可仕候

右者例年の通り二月廿四日より壹斗以上御注文之節ハ屋號並に店印付何年何月御届候間御用向被仰付度奉希上候

明治二十年

東京神田區松住町壹番地
榛原壽平元店

同芝區烏森町壹番地
榛原壽平支店

横濱海岸五丁目
蓬莱家揚
神戸
蓬莱舍 出

牛乳分析告示書

牛込區新小川町三丁目
願人 梅原要助

檢第十三號 牛乳 壹種

本品ハ臭味色共ニ異狀ナク設氏十五度半ノ温ニ於テ一〇三二ナリ而シテ本品百分中各成分ノ分量左ノ如シ

水分	八五、〇一一
脂肪	四、八八〇
乾酪素	三、五四八
蛋白質	〇、四四〇
乳糖	五、四六一
灰分	〇、六六〇

右ノ試驗成績ニ據ルニ本品ハ善良ノ性質ヲ具有スルモノトス

衛生局東京試驗所 檢明部長 内務技手補 田原良純
檢査主任 内務四等技手 町田伸

善良牛乳發賣廣告

一合	金三錢
五勺	金一錢五厘
毎日一合宛ニテ 一ヶ月分	金八拾錢
全五勺宛ニテ 同斷	金四拾錢

牛乳ノ滋養分ニ富ミ人身ニ益アルコハ皆人ノ知ル處ナリ然ルニ不良ノ牛乳ハ却テ健康ヲ害スルノ媒トナルコ亦多シ弊店常ニ善良ノ牛乳ヲ**廉價**ニ販賣シテ大ニ江湖ノ御愛顧ヲ辱フシ今回乳牛共進會及ヒ農産品評會ニ於テ**賞狀**ヲ賜リ併セテ**衛生局東京試驗所**ヨリ左ノ告示書ヲ下賜セラル是皆愛顧諸君ノ賜モノニシテ實ニ弊店ノ名譽ニ感謝ニ堪ヘザル處ナリ爾來益々勉強仕候間舊ニ倍シ御愛顧ノ程伏テ奉願候也

附言 右價格別ニ廉價ナレ共頭書ノ如ク善良ノ成績ニ付信ヲ置キ御飲用被下度尚御用之節ハ端書ニテ御報知被下候得者純良ノ生乳速ニ配達仕候

明治十九年 月

牛込區新小川町三丁目十九番地 中ノ橋際
牛乳搾取所 梅原要助

八月 一牛乳代請取之證

一日	二日	三日	四日
五日	六日	七日	八日
九日	十日	十一日	十二日
十三日	十四日	十五日	十六日
十七日	十八日	十九日	二十日
廿一日	廿二日	廿三日	廿四日
廿五日	廿六日	廿七日	廿八日
廿九日	三十日	卅一日	

牛乳計 [illegible]
此代價金 [illegible]
右正ニ請取申候也
湯嶋新花町三拾九番地
厚生舍

田中様

東京池之端仲町 内國勸業博覧會 賞牌 [illegible] 向井氏

池の端仲町通
御化粧小間物
[illegible] 常次郎

丹吉

東京
金銀 寶石 象牙 蒔繪
細工處
京橋區尾張町 [illegible]
平田文吉

和洋

測量器械類

神田錦町壱丁目十番地
伊勢屋藤兵衛

御時計	数品	繪圖引器械 数品
御時計鎖	数品	寒暖計 数品
御時計附属	数品	御磁石 数品
御望遠鏡	数品	御底見 数品
御両眼鏡	数品	バルモメイトル
水晶眼鏡	数品	ホクトメイトル
近眼鏡	数品	エレキテール
御養生眼鏡	数品	マク子ット
見微鏡	数品	ヨーウルゴーウル 数品
御日時計	数品	西洋尺度
水平規	数品	定規類

右之外数品御座候生合極細吟仕格外下直ニ差上候間多少ニ不限御用向被仰付可被下候
以上
月　日
鈴木

東京

武州秩父郡
上小鹿野町
甘泄屋製

長岡久左衛門

證之領受

一 [illegible] 十四

明治廿[illegible]三月六

根本武橘

執事

領收證

一 [illegible]

明治廿[illegible]年[illegible]月廿日

東京圖書館
教育博物館

記

一 [illegible] 二

右領收候也

明治廿年六月[illegible]日

本郷警察署

記

一 [illegible] 壱[illegible]

但 [illegible]

右領收候也

明治廿年七月廿日

東京府本郷區役所

田中芳男様

[illegible]

領收之證

一 總長紀 一部

明治二十年十一月廿日

帝國大學

宮内大臣

叡旨ヲ奉シ元老院議官田中芳男殿ヲ
来ル十一月三日午前十時四十分宮中ニ於テ
天長節ノ祝宴ニ招請ス

明治二十年十月二十八日

大禮服著用

席次上ノ都合有之ニヨリ當日参内ノ
有無来ル三十一日中必ス宮内大臣ヘ
宛式部職ヘ届出ラルヘシ

證

一両封書壱通

右正ニ落手候也

明治十九年十二月廿二日

元老院

田中芳男殿

証

一 巻烟草入 壱箇
鹽鮭 壱本

右正ニ請取候也

十二月廿日

榊調合所

田中議官殿
御使中

元老院議官田中芳男殿

同 令夫人

皇帝

皇后両陛下来ル二十一日午後三時濱

離宮御苑ニ於テ観櫻會御催ニ付延遼

館ヘ参入可有之旨被

仰出候因テ此

段及御案内候也

明治二十年四月十五日

宮内大臣伯爵伊藤博文

元老院議官田中芳男殿

同 令夫人

フロックコート著用夫人ハ

通常禮服或ハ西洋服着用

當日雨天ナレハ止ム

參會ノ際案内状ヲ持參シテ掛員ヘ示

スヘシ

元老院議官田中芳男殿
同　令夫人

宮内大臣

皇帝
皇后両陛下ノ命ヲ奉シ元老院議官
田中芳男殿及令夫人ヲ
来ル八日午後三時假皇居禁苑ニ
於テ催サルヽ觀菊會ニ招請ス

明治二十年十一月二日

通常フロツクコート著用夫人ハ
禮服或ハ西洋服著用

一 皇居官門ヲ入リ御車寄ニ於テ下乗スヘシ
一 參内ノ際案内状ヲ持參シテ掛員ヘ示スヘシ
一 當日雨天ナレハ止ム

河津
劉

田中元老院議官殿

来ル十一月三日
天長節ニ付延遼館ニ於テ夜會相催
候條午後九時ヨリ御来臨被下度致
希望候也

但燕尾服

明治二十年十月十日

外務大臣伯爵伊藤博文
伯爵伊藤梅子

田中元老院議官殿
同　令　夫　人

御来館ノ節此案内状接伴員ヘ御示シヲ乞

謹啓陳者来ル十日一品熾仁
親王幷ニ御息所兩殿下御苑
内牡丹滿開之時節ニ付苑遊
會御催被成度付テハ同日午後
二時御參會有之候樣致度
此段兩殿下ノ命ニ因リ御案内
申進候敬具

明治二十年五月一日

有栖川宮別當山尾庸三

議官田中芳男殿
令　夫　人

追テ御着服ハ「フロックコート」御入苑ノ節
必ス此招状家従ヘ御示シ相成度候

諾否ノ御答ヲ乞フ

田中元老院議官殿

来ル十一月三日
天長節ニ付延遼館ニ於テ
候條午後九時ヨリ御来臨
希望候也

但燕尾服

明治二十年十月十二日

外務大臣伯爵

田中元老院議官殿
同　令夫人

御來館ノ節此案内状

元老院議官田中芳男殿

明治廿年四月九日

A PROGRAMME

OF THE

FOURTH GENERAL MEETING

第二土曜日同十日第二日曜日ノ兩日

OF THE

EDUCATIONAL SOCIETY OF JAPAN,

虎ノ門内工科大學中堂ニ

TO BE HELD ON

於テ

Saturday and Sunday, the 9th and 10th April, 1887.

擧行スヘキ大日本教育會

第四回

IN THE

總集會次第

CENTRAL HALL OF THE ENGINEERING COLLEGE,

TORANOMON-UCHI.

大日本教育會長辻新次ハ明

Mr. Tsuji Shinji, President of the Educational Society

治二十年四月十日午後一時虎ノ

of Japan, requests the honour of ....*'s*

門内工科大學中堂ニ於テ擧行ス

company at the Fourth General Meeting of the Educational

ヘキ本會第四回總集會ヘ田中

Society, which will be held on the 10th April, at 1

芳男閣下ノ御來臨ヲ希望ス

P. M., in the Central Hall of the Engineering College,

敬具

Toranomon-uchi.

田中芳男閣下

明治廿年四月九日

A PROGRAMME

OF THE

第二土曜日同十日第二日曜日ノ両日

FOURTH GENERAL MEETING

OF THE

虎ノ門内工科大學中堂ニ

EDUCATIONAL SOCIETY OF JAPAN,

於テ

TO BE HELD ON

擧行スヘキ大日本教育會

Saturday and Sunday, the 9th and 10th April, 1887.

第四回

IN THE

總集會次第

CENTRAL HALL OF THE ENGINEERING COLLEGE,

TORANOMON-UCHI.

九日午後一時ヨリ

The proceedings on the 9th April will commence at 1 P.M., and be as follows:

會務ノ報告

1.— A Statement of the Affairs of the Society.

會員ノ演説談話

2.— Addresses by Members of the Society, and Conversation on Educational Subjects.

十日午前九時ヨリ

The proceedings on the 10th April will be as follows:

FORENOON SITTING, *(Commencing at 9 A. M.)*

會員ノ演説談話

1.— Addresses by Members of the Society, and Conversation on Educational Subjects.

會員小西信八君ノ演説

唖人教育ノ目的及唖人發音

但唖生ヲ同伴ス

2.— An Address on "The Education of the Deaf and Dumb" by Mr. S. Konishi, Member of the Society. (Some Deaf and Dumb Pupils will be introduced to the Meeting.)

小學校ニ於テ男女共學ノ可否討議

發議者會員庵地保君

3.— A Discussion on the Advisability of giving Instruction to Pupils of both sexes in the same school-room in Elementary Schools. The Discussion to be commenced by Mr. T. Ioji, Member of the Society.

挿入資料

同日午後一時ヨリ

Afternoon Sitting, *(Commencing at 1 P. M.)*

會員アーサー、マリシャール君演説

歐州ノ商業教育

1.— An Address on "Commercial Education in Europe" by Mr. Arthur Marischal, (Professor in the Tōkyō Commercial School), Member of the Society.

會員ドクトル、エミル、ハウスクネヒト君演説

善良ナル中學教員養成法

2.— An Address on "How to obtain Good Middle School Teachers" by Dr. E. Hausknecht, (Professor in the Imperial University), Member of the Society.

會員志田林三郎君演説

電氣工學近来ノ進歩

3.— An Address on "Recent Progress in Electrical Engineering" by Mr. R. Shida, (Professor in the Imperial University), Member of the Society.

會員ビ、エッチ、チャンバーレン君演説

日本地名中蝦夷語ノ存セルヲ論ス

4.— An Address on "Traces of the Aino Language to be Discovered in Japanese Place-Names" by Mr. B. H. Chamberlain, (Professor in the Imperial University), Member of the Society.

名譽會員ジヨーゼフ、アダム、シエンキユウヰチ閣下演説

5.— An Address by His Excellency Joseph Adam Sienkiewicz, (Minister of the French Republic), Honorary Member of the Society.

名譽會員森有禮閣下演説

6.— An Address by His Excellency Mori Arinori, (Minister of State for Education), Honorary Member of the Society.

名譽會員公爵三條實美閣下祝詞

7.— A Congratulatory Address by Duke Sanjō Sanetomi, (Lord Keeper of the Privy Seal), Honorary Member of the Society.

總裁一品熾仁親王殿下御詞

8.— A Congratulatory Address by His Imperial Highness Prince Arisugawa, (Commander-in-chief of the Army), Honorary President of the Society.

會長辻新次閣下謝詞

9.— A Speech in reply to the above Addresses by His Excellency Tsuji Shinji, (Vice-Minister of State for Education), President of the Society.

奏樂

10.— Music by the Imperial Military Band.

右終リテ招待賓ヘ茶菓ヲ呈ス

(At the conclusion of the proceedings, tea and cakes will be handed round to Ladies and Gentlemen invited to the Meeting.)

挿入資料

本郷區金助町七十二番地

田中芳男殿　東京彫工會頭渡邊洪基

東京彫工會ノ規則ニ據リ十一月一日ヨリ三日間東両國井生村樓ニ於テ第二回競技會ヲ開設致シ玉石金屬木竹牙角等ノ彫刻物各種ノ象型及ヒ篆刻ヲ陳列シテ審査ヲ遂ケ候筈ニ付御入覧被下度依之優待券一葉通常券二葉進呈仕候也敬具

明治二十年十月廿一日　東京彫工會々頭　渡邊洪基

田中芳男殿

二十年十一月一日ヨリ三日間午前九時ヨリ午後四時マテ東両國井生村樓ニ於テ開會

第二回競技會優待券

東京彫工會

此券ハ一人一枚ニ限リ入場ノ時此券ヲ示サレンヿヲ乞

靴ノマヽ入場ヲ謝絶ス

東京彫工會

大日本教育會長辻新次ハ明治二十年四月十日午後一時虎ノ門内工科大學中堂ニ於テ擧行スヘキ本會第四回總集會ヘ田中芳男閣下ノ御來臨ヲ希望ス

敬具

Mr. Tsuji Shinji, President of the Educational Society of Japan, requests the honour of ....'s company at the Fourth General Meeting of the Educational Society, which will be held on the 10th April, at 1 P. M., in the Central Hall of the Engineering College, Toranomon-uchi.

田中芳男閣下

大日本私立衛生會第五回總會順序

明治廿年五月廿八日於東京京橋區木挽町厚生館

午前九時ヨリ(午前ハ知友ノ同行ヲ謝絶ス)

役員ノ撰擧

議事(議題本會規則改正案)

午後零時十五分喫飯以下各項擧行ノ間奏樂

午後一時ヨリ(知友同行隨意)

前年中本會ノ成績及ヒ會計ノ報道　太田實

前年中内國衛生上ノ景況報道　長與專齋

前年中海外衛生上ノ景況報道　三宅秀

午後三時ヨリ

衛生上參考品展覽會(築地本願寺ニ於テ)

午後六時三十分ヨリ

懇親會(築地精養軒ニ於テ)

懇親會ニ臨マント欲スル會員ハ來廿五日迄ニ本會事務所ヘ申込マルヘシ但會費壹圓廿錢

衛生上參考品展覽會

東京築地本願寺ニ於テ

一展覽會開場時刻ハ左ノ如シ

五月廿八日

午後三時ヨリ五時マテ

五月廿九日

午前八時ヨリ午後五時マテ

但午前十時ヨリ十二時マテ午後一時ヨリ三時マテノ間毎箇陳列品ヲ說明ス

午後三時ヨリ五時マテ飲食物ノ試驗ヲ示ス

五月三十日

午前八時ヨリ午後五時マテ

但陳列品說明時間前ニ同シ

午後三時ヨリ五時マテ飲料水ノ試驗ヲ示ス

一何人ニ限ラス縱覽勝手タルヘシ

東京々橋區宗十郎町七番地
大日本私立衛生會

本月廿八日本會第五次總集會ノ序ヲ以テ當日ヨリ三日間東京築地本願寺ニ於テ衛生上參考品展覽會相開候ニ付御繰合ヲ以テ御来觀之程致企望候此段御案内申上候以上

明治廿年五月

大日本私立衛生會
會頭　佐野常民

田中芳男殿
同令夫人

Mr. Sano, President of the Japanese Society of Health, has the honour of inviting

....

to inspect the objects relative to Health, to be exhibited by the Society, at the Honganji, Tsukiji, on the day of its general meeting, Saturday the 28th, and two following days, Sunday the 29th and Monday the 30th of May 1887.

拜啓陳ハ本社設立爾後工事モ竣功致候ニ付七月十二日午後第二時開場式執行仕候間御繁用中ニハ可被為在候得共御差操御貴臨被成下度此段御案内申上候敬具

明治廿年七月九日

東京家畜市場會社々長 鈴木源造

田中芳男殿閣下

御来場之節此案内状接伴員ヘ御示ヲ乞

東京家畜市場會社々長 鈴木源造

北豊島郡千束村二百六十九番地

洋菓子本舗 京橋南鍋町 米津松造 風月堂

新發明 衛生有効 麥釀精酒

該酒ハ内務省衛生試驗所ノ御試驗ヲ經由セシニ試驗成蹟上ノ含有定量及ヒ飲料ニ供シ害ナキ旨ノ告示書ヲ下附セラレタリ

第一日本麥酒 京都釀造組

麥釀精酒ノ材料ハ大麥ヲ原資トシテ釀造セシモノナレハ固ヨリ衛生上無害ノ飲料ニシテ健康的ノ偉功ヲ奏シ且快醉ノ効アリ[illegible]醒ノ妙アリ而シテ宿酊ヲ患ヘ頭腦ヲ惱マス等ノ難ナシ最モ酒客ノ平素畏怖スル所ノ中風甚シキハ痺中等ノ慘酷ナル災害ヲ豫防スルニ適當ノ飲料ナリトス

附言 該酒ヲ飲料ニ供スルハ冷酒ヲ最良トス然レモ習慣温酒ヲ嗜好ノ人ハ適意ニ温酒トナスモ敢テ妨ケナシ

THE JAPANESE SOCIETY OF HEALTH.

A COLLECTION OF OBJECTS RELATING TO HEALTH IS EXHIBITED BY THE SOCIETY, AT

Honganji, Tsukiji,

On Saturday, the 28th, between 3 and 5 p.m., and Sunday and Monday, the 29th and 30th, between 8 a.m. and 5 p.m., May, 1887.

You and your family are cordially invited.

明治廿年五月 廿八日午后三時ヨリ五時マテ 廿九日 三十日 午前八時ヨリ午后五時マテ

大日本私立衛生會 衛生參考品展覽會 招待券

於東京築地本願寺

御家族御同伴ヲ乞フ

謹啓陳者来ル二十日午後五時三十分御砲艦鳥海號進水式執行候ニ付同日午後四時三十分御光臨被下度此段御案内申上候敬白

明治二十年八月十七日

東京石川島造船所

副社長 梅浦精一

社長 平野富二

議官田中芳男殿

再伸本文御光臨之有無来ル十五日迄ニ御報示被下候ハヾ難有奉存候

本郷[illegible]七十四番地

議官田中芳男殿

芝區愛宕町貳丁目八番地
東京慈恵醫院

此度東京慈恵醫院ヲ
皇后陛下　御眷護ノ下ニ被爲置來ル九日同醫院
ヘ　行啓在セラレ開院式被爲行候ニ付同日午后
一時三十分御來院被下度此段及御案内候也
　但雨天ナレバ翌十日

明治二十年五月三日

東京慈恵醫院幹事長　有栖川一品親王妃董子
東京慈恵醫院幹事　伯爵夫人　山縣友子
伯爵夫人　松方滿左子
伯爵夫人　大山捨松
榎本多津
伯爵夫人　佐々木貞子
侯爵夫人　鍋島榮子
男爵夫人　長岡知久子
子爵夫人　樺山登茂子
公爵夫人　毛利安子
伯爵夫人　戸田極子

田中芳男　殿

着服男子ハフロツクコート

[illegible]府養育院慈善會開設ニ付御賛成度旨
過般呈書致置候處目下會員募集中ニ有之候處[illegible]
人員ニ不達何分開會之運ニ不至就テハ貴下[illegible]
入會ヲ相請[illegible]候間入會相成候[illegible]
別紙ニ御記名之上御回附相成度致希望候拝具
明治廿年　月
高嵜東京府知事

養育院慈善會創設ニ付
御通知之趣承知即會員ニ
加盟致度候間此段及御答
候也
明治廿年四月

高嵜五六

藍色

襃賞証

第何號

何々圖案

出品者
會員
何ノ誰

右本日出品中最優（優等）ノモノト査定ス因テ襃賞トシテ金何圓（何々何個）ヲ贈與ス

明治　年　月　日

龍池會 印

茶色

襃狀

第何號

何々圖案

出品者
會員
何ノ誰

右本日出品中考案ノ佳ナルモノト査定ス因テ茲ニ之ヲ襃賞ス

明治　年　月　日

龍池會 印

總會之儀來ル十六日可相開旨及御案內置候處都合有之本月廿四日（即第四日曜日）ニ延會致候間同日午前第十時華族會館ヘ御來會被下度且總會之順序別紙之通リ相定候間此段モ申添候也

明治二十年四月十四日

龍池會幹事

田中芳男殿

追而懇親會之儀モ同日ニ延會致午後第四時半ヨリ上野新阪下温泉樓ニ於テ相催候間御出席之有無共來ル廿日迄ニ御通知相願候

一總會順序

二十四日午前第十時上野公園內

開會

ヒ會計ノ報告

改選

ノ談話

回覽

評

ノ講說

殿下ノ御告辭

會員細川潤次郎君
會員山岡次郎君
會員大熊氏廣君

答詞

會

龍池會總會順序

明治二十年四月二十四日午前第十時上野公園內

華族會館ニ於テ開會

第一　事務及ヒ會計ノ報告

第二　役員ノ改選

第三　美術上ノ談話

第四　午餐

第五　列品ノ回覽

第六　圖按品評

第七　美術上ノ講說

會員　細川潤次郎君

會員　山岡次郎君

會員　大熊氏廣君

第八　總裁宮殿下ノ御告辭

第九　會頭ノ答詞

右畢テ散會

茶色

褒狀

出品者

會員

何ノ誰

何號

何々圖案

本日出品中考案ノ佳ナルモノ

查定ス因テ茲ニ之ヲ褒賞ス

明治　年　月　日

龍池會 印

出品工案圖品評手續

其一

一出席ノ會員投票用紙ニ吾姓名ヲ記シ優等ト認メタル三種ノ記號ヲ其欄內ニ記入シ投票函ニ投スベシ

其二

一午後三時半ニ至レハ幹事投票ヲ開キ點數ヲ調査シ甲乙丙ノ三種ヲ記載シ會頭ニ申告シテ褒賞ヲ附與ス

其三

一同點數ノモノアルトキハ更ニ三名以上ノ再投票ヲ請ヒ甲乙ヲ定ム

其四

一褒賞ハ甲乙ニハ其相當ノ賞品（金員）ニ別紙書式ノ証書ヲ添ヘ丙ニハ褒狀ヲ附與ス

但意匠又ハ形似等ニ著敷優異ノ件アルモノハ証書褒狀ニ共旨記入スルモノ

一投票用紙式

品評者		
第　　號	甲	百點
第　　號	乙	五拾點
第　　號	丙	三拾五點

明治二十年三月

龍池會

來ル十八日午後一時ヨリ上野公園內華族會館ニ於テ常會相開候間御來會有之度此段及御案內候也

當日出陳品　画書　繡織

但番外御出品ハ御隨意ノ事

當日講話演題

一繪画ヲ見テ感アリ　田中芳男君

明治廿年六月五日

上野公園內櫻ヶ岡

龍池會

…而總裁宮殿下ヨリ御懇諭之末略御協議致置候

…會陳列館建築之儀図案調整候ニ付為御相談

…ル廿三日臨時総會相開候間同日午後三時御差繰

…テ上野公園內華族會館ヘ御來會相成候樣致度

…段御案內申進候也

六月十九日

龍池會々頭　佐野常民

…之ヨ當日ハ餘興ノ為古画类等陳列致置候間

…念申添候也

BULLETIN DE LA SOCIÉTÉ NATIONALE D'ACCLIMATATION
Revue des Sciences Naturelles appliquées
41, RUE DE LILLE — PARIS

Monsieur Tanaka-Yosiwo,
Botaniste, Cai-sei-dzjo,
à Yeddo (Japon).

龍池會幹事

龍池會幹事

出品工案圖品評手續

其一

一出席ノ會員投票用紙ニ吾姓名ヲ記シ優等ト認メタル三種ノ記號ヲ其欄內ニ記入シ投票函ニ投スベシ

其二

一午後三時半ニ至レハ幹事投票ヲ開キ點數ヲ調査シ甲乙丙ノ三種ヲ記載シ會頭ニ申告シテ褒賞ヲ附與ス

其三

一同點數ノモノアルトキハ更ニ三名以上ノ再投票ヲ請ヒ甲乙ヲ定ム

其四

一褒賞ハ甲乙ニハ其相當ノ賞品(金員)ニ別紙書式ノ証書ヲ添へ丙ニハ褒狀ヲ附與ス

　但意匠又ハ形似等ニ著敷優異ノ件アルモノハ証書褒状ニ其旨記入スルモノ

一投票用紙式

品評者		
第　　號	甲	百點
第　　號	乙	五拾點
第　　號	丙	三拾五點

明治二十年三月

龍池會

来ル十八日午後一時ヨリ上野公園内華族會館
當會相開候間御来會有之度此段及御
當日出陳品　画書　繡織
　但番外御出品ハ御隨意ノ事
當日講話演題
一繪画ヲ見テ感アリ　田中芳
明治廿年六月五日
上野公園内櫻ヶ岡
龍池

豫而総裁宮殿下ヨリ御懇諭之末略御協議致置候
本會陳列館建築之儀図案調整候ニ付為御相談
来ル廿三日臨時総會相開候間同日午後三時御差繰
ヲ以テ上野公園内華族會館ヘ御来會相成候様致度
此段御案内申進候也
六月十九日
龍池會々頭
佐野常民
追テ當日ハ餘興ノ為古画类等陳列致置候間
為念申添候也

BULLETIN DE LA SOCIÉTÉ NATIONALE D'ACCLIMATATION
Revue des Sciences Naturelles appliquées
41, RUE DE LILLE — PARIS

Monsieur Tanaka-Yosiwo,
Botaniste, Cai-sei-dzjo,
à Yeddo (Japon).

拝啓陳者來ル十七日午後四時ヨリ木挽町厚生館ニ於テ感化慈善會ノタメ佛國法律大博士ボアソナード師ノ講談會相催シ候間御繁務中恐入候得共何卒御繰合セ御來會被成下度此段御案内申上候敬具

明治二十年五月十日

岡本武雄
吉川泰二郎
高田早苗
田中菊治郎
高瀬眞卿
中川忠純
名村泰藏
宇川盛三郎
古宇田義鼎
近藤廉平
北澤正誠
三野村利助

田中芳男様
同　令夫人

再白當日講談順次左ノ通ニ御座候間御承知迄申添候

一 佛國法律大博士ボアソナード師　演説
一 福地源一郎君　演説
一 本會幹事長名村泰藏君　演説

田中芳男殿
侍史

高瀬眞卿
近藤廉平
吉川泰二郎
三野村利助
名村泰藏

拝呈然ハ故佛國陸軍大尉勲四等ヂブスケ氏ハ慶應二年幕府ノ聘ニ應シテ日本ニ來リ維新後左院正院元老院等ニ歴仕シ前後我政府ノ為メニ盡力スルコト十餘年其功勞實ニ尠カラザルニヨリ有志者相謀リ同氏ノ為メニ墓碑ヲ建設セントスル協議中ノ處漸ク近日着手致候ニ付何卒右御賛成多少ニ限ラズ御出金被下度此段希望候敬白

發起人
成島謙吉　小笠原政德
竹村本五郎　西山眞平
黒田綱彦　平山成信
岡田善長　平岡芋作
福田重固　櫻井能監
大鳥圭介　大治　恒

二十年十二月廿日

田中芳男殿

追テ本文御賛成被下候ハヾ御出金額可成速ニ本郷弓町二丁目二十九番地西山眞平方ヘ御通知相願候

拝啓陳ハ中村弘毅儀久々病氣之處養生不相叶昨三日午前死去仕候來ル六日午後一時出棺谷中墓地ニ神葬執行候此段及御通知候也

廿年十二月四日

千城
佐々木高行

相撲場之儀池之端仮場ニ建築
致度就而ハ足場工事落成ニ付来ル
十三日現場義ハ執行候旨御示談興ヘ
ニテ大喜興ノ由大関ヨリ拾ヶ角力
興行候ニ付煙花及折撲ケ角力取等
覧ニ供シ申度存候間右之大段次
第ニ御座候先般当日ハ御臨場
被成下度此段右願候也

長芳

明治廿年三月十日

前田福吉 拝

田中芳男殿
執事御中

田中芳男殿
執事御中
前田福吉 拝

相陳者池之端御邸ニ建築
致居候光明楼工事落成ニ付来ル
十三日祝賀之義ヲ執行候ニ付餘興
トシテ大達西ノ海ノ両大関ヲ招キ角力
興行候ハヽ煙花ヲ打揚ケ御加入等
覧ニ供シ申度候間是非御来臨
被下候様相願候尚日時ハ此段
被成下度此段得貴意候

長岡

明治廿年三月十日

前田福吉拝

田中芳男殿

田中芳男殿

執事御中

前田福吉拝

拝啓仕候益御清適被成
御座奉恭賀候陳者來ル
十九日午後二時ヨリ工
科大學中堂ニ於テ羅馬
字會第二回總會相開キ
候間御臨場奉願度此段
御案内申上候敬具

明治二十年三月十七日

羅馬字會幹事
神田乃武
矢田部良吉

田中芳男様
同夫人

演説者姓名
榎本武揚君
米國公使
ハッバード君
渡邊洪基君
チャンブレン君

ドロウニ 品位色沢共ニ秀

純粋海膽

蓋シ雲丹ハ補腎ノ良劑侑杯ノ佳肴ナルハ今贅言ヲ要セス而シテ世ノ之ヲ製出スル者甚ダ多シト雖モ其眞味ヲ保ツ者甚ダ尠シト云フ予之ヲ慨スルヿ此ニ數年也幸ニ弊驛ハ港灣咫尺ノ地ニ在ルヲ以テ近來其原質ヲ擇採シ始メテ製法ヲ試ミシニ東去ノ尊客西來ノ貴賓頻リニ愛需ノ榮ヲ辱クシタリ實ニ思想外ト云ハザルヲ得ズ因之大方謝恩ノ爲メ爾來幾層ノ試驗ヲ重ネ終ニ牧野精製雲丹ノ盛ヲ鳴サンヿヲ期セリ是亦當今水産擴張ノ一端ナラン乎

明治廿年一月 日

鳥取縣伯耆國八橋郡赤崎宿
御休泊所
テツヤヿ
愛顧樓 牧野茂三郎
拝告

選酤
獨擧 菓製不醉酒

東京 殖産興業社
廢物利用社 合製

右不醉酒ハ美熟ノ菓ヲ以テ製スル所ナレモ壜栓ヲ開キテハ久ク貯フルヿ能ハズ故ニ成タケ早ク飲尽スベク止ヲ得ザル場合ナラバ嚴重ニ栓ヲナシ置クベキモノトス

禁賣買

結城神社乃由來

當結城神社ハ贈正四位結城上野介藤原宗廣朝臣を祭り其子判官親光主及殉難戰歿將士之靈を配て祀れるなり朝臣は陸奥國白河の城主にして元弘三年　後醍醐天皇の密詔を賜り一族を率て新田義貞卿と共に北條高時を亡し其後北畠顯家卿陸奥出羽二國の鎭撫として　皇子義良親王を奉戴して下向せられければ之を裨て善く其二國を治め玉ひ建武二年足利尊氏逆を企て亂を起すに及て顯家卿と共に　皇子に從ひ奉り京都に上り賊兵等を追退て後本國に歸り居玉ひしに尊氏再び責上りて天下大に亂れければ又馳上り玉ふ道すがら所々にて戰ひ勝利を得られしかども遂に顯家卿は阿倍野に戰死せられ　皇子ハ吉野の　行宮に赴き玉へるを以て朝臣も亦追繼てぞ參向せられける斯て楠新田名和菊池等の功臣次第に亡玉ひ　皇軍日々に衰へて　叡慮も更に穩ならず諸臣も皆色を失へるを朝臣獨勇氣撓まず進み健て重て　皇子を奉戴して東國に下り義兵を募り天下を回復せんとを奏上げられけるよ　朝議忽に決し延元三年八月北畠顯信卿と共に　義良親王に從へ下らしめ玉ふ然るに陸路ハ賊兵充塞て通り難きを以て當伊勢國大湊を發船し天龍沿を過て伊豆の岬に到らんとしたる時しも颶風俄よ吹起りて　皇子及顯信卿の御船にも離れて七日七夜の間海上に漂て遂に此安濃津に吹歸され玉ひ順風を得て再び發船せんと待居らるゝ折しも激病に罹り歿せらる是延元三年十月五日のとにて年七十三歲なりと云ふ其歿するに臨て刀を拔き切歯して亂賊を滅し　國家を恢復せんとを遺囑せらる其語の凜烈なる今も猶ほ人をして毛髮を立しむ實に楠子七生の言に配して耻ると無し蓋し　南朝忠臣の中その身死すと雖も尙ほ亂賊を亡し　國家を恢復せんとを天地に誓ひ之を明言せられしに至てハ楠子の外其比を見ざる所なり遺骸を葬りし墳墓ハ本社の側に在り其墳墓の西方に小祠を建て彼の臨死の際拔持玉ひける劔を藏めて神体となし其英靈を祀り結城明神と稱しき此社何人の搆し所なるか詳ならず然れども固より偶然に出し者に非ずして當時忠義の氣に感じ且神異の驗ある者有けるを以て祀れるよし言傳たり寛永九年に津藩主藤堂高次垂水村千歲山なる八幡神社を此社の傍に移してより遂に當社を地主の神或は古社八幡宮と稱するに至れり祭事ハ八幡藤枝兩町にて產土神と等しく行ひ來れり津藩主藤堂高兌深く朝臣の忠義を欽慕し藩儒津阪孝綽の建議を納れ文政七年に其神社を稍大に再建し墳墓に碑石を建て表面には自ら結城神君之墓と題し背面にハ津坂孝綽をして朝臣の功績を詳錄せしめ又祭日にハ重職の士を遣して代拜せしめ且祭典費修繕費共に該藩にて支出する事となせり近衛關白忠熙公此擧を嘉して結城明神の額を寄附せらる是に於て朝臣の忠德を知る者多に至れり然に高兌歿して後藩廳幕府の嫌疑を恐れて漸次に其例式を怠り又藩士の内に朝臣ハ志望を遂ずして死しを以て武士たる者の參詣すべき神社に非ず云々等の横議を爲す者あり是によりて遂に參拜者の跡を斷ち其祭典及修繕の如きも八幡藤枝兩町の人民に放任して數十年を經過せり是を以て復た其崇敬を失し忠德を知る者なきに至れり然して明治七年神社取調の際これを無格の雜社とし側なる八幡神社の附屬社とせり是より一社獨立の資格を失ひ祭典も彌々徵々とし社殿も益々頽敗して雨露を凌ぐ能ず墳墓も亦石垣既に倒れ碑石ハ將よ覆らんとす其慘狀擧て言ベからず是れ當社衰頽の極度とす茲に明治九年十月當伊勢國飯高郡大足村川口常文偶來拜して楠名和の二將と等しく當時三木の稱あり　皇家に功勞あると廣大なるを以て此主の靈及一族殉難士の靈をも配祀せんとを發起せり然れども當時の社殿及墓碑ハ藤堂氏の造築に係るを以て常文深く斟酌する所ありて舊津藩主藤堂高猷に就て其先志を紹ぎ之が首唱者たらんとを乞しに納れず其事再三に迨て同十二年二月高猷自ら首唱者たらむ事を謝絕して金五百圓を寄附す於茲常文自ら首唱者となり私財を抛て百方に奔走し其忠德を講明し而て廣く同志を募集するとを勉む然に世人常文を狂愚視して之を嗤笑す然れども常文自任ずると厚くして毫も之を顧ず益々奮進して已ず是に因て興感して應ずる者日に増月に加はれり九月村社格に列せらる同月常文等有志輩數名連署して神殿を改造し其子親光主及一族殉難士の靈をも配祀せんとを請願し十一月十七日允許を得十三年七月天皇陛下三重縣へ　御巡幸在せられしとき朝臣の忠烈を　御追賞あり侍從荻昌吉を　勅使とし參向せしめ祭粢料金若干圓を下賜せらる九月六日神社改造の擧を　聞食され金二百圓を下賜せらる又皇族大臣參議及縉紳諸家陸續金を出して之を賛成し又海內の志士仁人此擧を助くる者數百千人に及べり因て先墳墓と修繕し且在來の神社敷地ハ偏陽の狹隘まして堂々たる社殿を建築すべき位置よ非ざるを以て更に適當の敷地を豫定し其敷地となるべき地所を賣得して之を寄附する等漸次其事業に從へり十四年某月に常文書を太政大臣及內務卿に上り建議する所あり十五年一月廿四日　特旨を以て別格官幣社よ列せられ五月一日三重縣令岩村定高を　勅使として告祭式を行はる六月三十日に此告祭の日を以て每年の例祭日と定めらる十月五日別格官幣社の坐列を藤島神社の次席と一名和菊池兩社の上に位せらる十六年八月六日　特旨を以て正四位を賜らる九月三重縣大書記官下山尙を　勅使として告祭式を行はる十七年四月廿五日親光主及殉難戰歿將士を配祀せらる偕官幣社よ列せられしを以て地坪三千四百七十七坪を境內とし造營の事業も總て官に屬す其費額金壹萬圓の內へ常文等有志輩より更に金千圓人夫千人地所壹反廿步を献納す又其他に財物を抛ち心力を盡せる事夥多しく又當安濃津の市街各町及遠近諸村の人民擧て神德を仰慕し來て土砂を運搬し或ハ敷地の杵築等を爲し此擧を祝し信意を表せしもの殆十萬人に及べり十七年五月本殿拜殿祝詞屋透塀內玉垣社務所祭器庫手水屋形等落成せるを以て同月廿日に正遷宮式を行はれたり其殿內の莊飾布設等最も美麗を盡し又有志者より楯鉾太刀弓矢其他種々の神寶を奉納する等實に至れり盡せりといふべく且遷宮の節其次第の嚴肅にして行粧の整正なるを拜觀して人皆朝臣が當時の功勞を仰ぎ忠義の餘榮を感じ合て止まざりき尋で十八年八月神庫を建增し十九年六月神饌所を增築なりぬ抑朝臣が　義良親王を奉戴し北畠顯家卿を補けて東西に奔走し　國家の回復を謀られし其功勞擧て謂べからず然れ共當時其力を竭されし所の者冥々の中に在を以て其大功緯績完く世に顯れず故に古來其英靈を祀れる此神社も亦廣く世人の知るに至らず榛莽中に埋沒して五百有餘年の久しきを經たりしに維新の盛時に遭遇し　勅祭を行はれ其誠忠大節天下に顯れ其德光赫々として日月と光を爭ひ士人普く之を尊崇仰慕して止まざるに至り高兌常文等の志も亦ともに萬代に存する事を得たるハ偏に　聖世の德澤と云ふべくなんかしこ

明治十九年十月

伊勢國安濃郡津

結城神社社務所

五百五十年祭廣告

當結城神社祭神贈正四位結城上野介藤原宗廣朝臣ハ往昔元弘ノ初　後醍醐天皇ノ密詔ヲ奉シ義兵ヲ擧ケ新田氏ト力ヲ合セ北條高時ヲ誅滅シ其後足利尊氏叛逆ヲ企テ王師利ヲ失フニ及テ自ラ　國家ノ回復ヲ圖リ其身　皇子ヲ擁戴シテ海ニ航シ東下セラル丶ニ際シ颶風ノ爲メニ沮マレ夙志遂ケス終ニ延元三年十月空ク此安濃津ニ歿セラル而シテ本年ハ恰モ五百五十年ノ忌辰ニ當レルヲ以テ向フ五月一日ヨリ七日間盛大ナル祭典ヲ執行シ其英靈ヲ慰サメ將タ詩歌文章競馬角力烟火撃劔等ヲ奉納シ且ツ　後醍醐天皇ヨリ朝臣ヘ賜ハリシ所ノ　綸旨等數通其他廣ク海内諸家ニ傳ル所ノ　南朝ニ關セル遺書遺物ヲ蒐輯シ一ノ展覽會場ヲ開キ衆庶ニ拜覽ヲ許シ當時ヲ追想セシメントス夫レ忠勇義烈ノ志ヲ挾ミ大義名分ヲ明ニシ　國家ニ大勳勞アリテ萬世臣民ノ摸範タルヘキ功臣ハ尤モ歳時ノ靈祭ヲ愼ミ猶ホ厥ノ節烈ヲ永世ニ赫奕タラシムルヲ圖ラザルベカラズ是レ其神靈ヲ欽仰スルト共ニ億兆ノ忠勇義烈ヲ磨厲スル所以ニシテ古今祀典ニ徴スルモ其義炳然タリ是ヲ以テ今回ノ祭典タル一ハ則チ朝臣ノ忠烈ニ對シテ仰慕ノ誠衷ヲ表シ一ハ則チ目今天下臣子ノ義氣ヲ皷動奬勵スル所以ニシテ本社ヲ別格官幣社ニ次列セラレシ　聖旨ヲ体認セルニ因由スルモノト云ハンノミ乃チ豫シメ該祭ヲ執行スル大意ヲ揚ケ以テ廣告ス請フ朝臣ニ緣故アル諸彥及ヒ普天下ノ士民朝臣ノ忠勇義烈ヲ仰慕ノ餘リ參拜アランヿヲ

明治廿年三月

伊勢國津
結城神社社務所

詩歌文章　兼題　寄劔思昔　料紙隨意

右玉作及ヒ此題ニヨラストモ當社ニ關スル詩歌文章ハ新古ヲ撰ハス四月廿日迄ニ寄送アランヿヲ乞フ